市原市菊間遺跡群

袖ケ台地区

2003

株式会社　エヌ・ティ・ティ・ドコモ

財団法人　市原市文化財センター

序　　文

市原市菊間地区は、東京方面から京葉道路を下ると蘇我出入り口を過ぎて、館山自動車道に接続してすぐの、市原市北東部の千葉市に隣接した地区です。高速道路の看板の、市原市の鳥ウグイスと、市域イラストの表示板を過ぎると市原市です。千葉市と市原市の境界は、旧茂原街道となっており、古代そこの境界線が上総の国と下総の国の国境でした。

表示板から間もなく、防音壁より上の視界に台地上の森の緑が目に入ります。そこが、今回調査対象になった菊間遺跡群です。台地の森の中でも一段と高い林が、菊間古墳群の菊間天神山古墳です。その付近は、村田川流域に君臨した古墳時代の豪族、「国造本紀」に記された、「菊麻国造（ククマノクニノミヤツコ）」の墓域と、本拠地と考えられています。

菊間遺跡群は長軸約1100m、短軸約700mのほぼ長方形を呈し、その区域には菊間古墳群も含まれており、台地上の菊間地区のほとんどが遺跡となっています。菊間遺跡群北端部の菊間遺跡と、菊間古墳群最初の首長墓である新皇塚古墳が1973年に調査され、相前後して菊間手永貝塚等が調査されています。その30年後、今回遺跡群中最も南に位置する袖ヶ台地区が調査されました。

字袖ヶ台地区は菊間八幡神社の境内地となっています。調査に際しては、菊間地区の住民の皆様、調査対象地区となりました菊間八幡神社氏子及び氏子役員総代の方々には、調査開始から、終了までご協力頂きましたことに感謝を申し上げます。また菊間地区の無線通信発展の為、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ様には、調査に対してご理解とご協力頂き、誠にありがとうございました。最後に千葉県教育委員会、市原市教育委員会には、調整に当たり数々のご指導を賜り感謝申し上げます。

無線基地局の狭小な対象地ながら、多くの成果があり、本調査報告が市原市菊間地区の地域研究の一資料となれば幸いです。

2003年９月

財団法人　市原市文化財センター
理事長　藤　本　康　男

例　　言

1．本書は、千葉県市原市菊間字袖ヶ台3165番地１の一部において、移動通信用無線基地局の新設（第一種電気通信事業施設）に先行して、実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．本書に所収した遺跡は、菊間遺跡群（千葉県埋蔵文化財分布地図（3）―千葉市・市原市・長生地区（改訂版）―1999．３千葉県教育委員会遺跡番号市原市遺跡番号912）の袖ヶ台地区である。

3．発掘調査は、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの委託を受け、㈶市原市文化財センターが実施し、整理作業、報告書作成まで行った。

4．発掘調査の対象面積は240㎡、菊間遺跡群袖ヶ台地区の当センター番号はセ371である。

5．調査期間、整理報告書刊行期間及び作業担当者は、以下の通りである。

　　発掘調査　平成15年２月17日～平成15年３月17日　　近藤　敏

　　整理刊行　平成15年４月１日～平成15年９月10日　　近藤　敏

6．本書の編集及び執筆は、担当の近藤が行った。そのほか、遺構、遺物については、当センター職員諸氏の助言や協力を受けた。

凡　　例

1．本書で示す北は、平面直角国家座標の関東第Ⅸ系座標北であり、座標系は旧座標系を現地に設定したが、将来のため便宜的に、実測に寄らない換算計算の新測地系2000を、全体図に併記した。

2．本書で使用した地形図は、国土地理院発行1/25,000地形図「蘇我」・「五井」と、㈶日本地図センター刊行の迅速測図原図復刻版684千葉県上総国市原郡八幡村及菊間村、市原市基本図平成７年修正Ｂ－６・Ｂ－７、昭和38年市原市8の1/3,000地図と、昭和23年頃の千葉県市原郡八幡町外二個町村耕地整理基本調査実測図1/3,000の集成図である。

3．遺構図面の縮尺は、竪穴住居、掘立柱建物跡1/80、地下式壙、土壙墓は1/60となっている。全体図、遺構集合図に関しては、適時スケールを付した。遺物に関しては、実測図、拓影図1/3としたが、一部の石器は1/2となっており、全ての挿図には、スケールを付している。

4．水準は、市原市標石番号№28の（平成14年１月補正）、既知点を使用した標高値である。

5．本遺跡の当センターのコード番号は、セ371とし、注記番号は報告書番号と同一である。

6．出土遺物は市原市教育委員会の、市原市埋蔵文化財調査センターに保管している。

〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地　　TEL 0436-41-9000

本文目次

序文
例言・凡例
第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査の経緯 …… 1
第２節　地理的環境 …… 1
第３節　歴史的環境 …… 4
第４節　調査の方法 …… 9
第Ⅱ章　検出された遺構と遺物
第１節　縄文時代 …… 9
第２節　弥生時代 …… 9
第３節　奈良平安時代 …… 10
第４節　中近世 …… 11
第Ⅲ章　まとめ
報告書抄報

挿図目次

第１図　菊間遺跡群袖ヶ台地区位置図 …… 2
第２図　菊間遺跡群袖ヶ台地区地形図 …… 3
第３図　菊間遺跡群周辺地形図 …… 5
第４図　菊間地区及び周辺地区小字切図 …… 6
第５図　大厩館跡地形図と字切図の集成図 … 7
第６図　菊間遺跡群袖ヶ台地区全体図 …… 8
第７図　縄文時代出土遺物 …… 9
第８図　第５号遺構図出土遺物 …… 20
第９図　第５・第８号遺構図出土遺物……21
第10図　第３号遺構図出土遺物 …… 22
第11図　第３・７・21号遺構図出土遺物 …… 23
第12図　第１号遺構図 …… 24
第13図　(上)第１号出土遺物 …… 25
第13図　(下)第４号遺構図 …… 25
第14図　(上)第４号出土遺物 …… 26
第14図　(中)第２号遺構図出土遺物 …… 26
第14図　(下)第13・16・18(24号)遺構図出土遺物
第15図　第６号遺構図出土遺物 …… 27
第16図　第９・10・11・12・14・15・17・19・22・23号遺構図 …… 28
第17図　第９・10・11・12・14・17号出土遺物及び表面採集遺物 …… 29

図版目次

図版１　菊間遺跡群袖ヶ台地区位置と周辺地形
図版２　(上)菊間遺跡群袖ヶ台地区調査区域全景
図版２　(下)調査区域より北方向から南東方向遠望
図版３　第５・８・７号遺構①～⑧
図版４　(上)調査区全景①
図版４　(下)第３・第８号遺構②～⑤
図版５　第６・２号遺構周辺部①～⑧
図版６　第１・４号遺構①～⑧
図版７　(上)調査区南隅第９号遺構八幡神社本殿①～④
図版７　(下)１・３・５号出土遺物
図版８　(上)縄文時代出土遺物
図版８　(下)第５・８号出土遺物
図版９　(上)第３号出土遺物
図版９　(下)第３・７・21号出土遺物
図版10　(上)第５・１号出土遺物
図版10　(下)第４・２・24号出土遺物
図版11　(上)第６号出土遺物
図版11　(下)第９・10・11・12・14・17号出土遺物

表目次

遺構一覧表
遺物観察一覧表

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査の経緯

発掘調査は、市原市菊間字袖ヶ台3165番１の一部における移動通信用無線基地局の新設に先立って実施された。工事に先がけ、千葉県教育委員会及び市原市教育委員会に、住友電設株式会社より同地点に於ける「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」が、提出された。これを受けて、照会範囲が菊間遺跡群である旨の回答がなされ、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課、株式会社エヌ・ティティ・ドコモの三者による事前協議、埋蔵文化財有無の試掘確認の結果、同地点の埋蔵文化財については工事地区240㎡ついて発掘調査を実施し、記録保存を行うこととした。それによって第01602号「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出され、千葉県教育委員会より「周知埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」がなされた。その間調整の結果、株式会社エヌ・ティティ・ドコモと、財団法人市原市文化財センター間に「移動通信用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財（菊間遺跡群）調査委託（本調査、整理、報告）」の委託契約がなされた。

第２節　地理的環境（第１図参照）

千葉県市原市北東部、千葉市との境界、上総下総国境界南側が、菊間遺跡群である。調査地点の菊間字袖ヶ台3165番１は、千葉県埋蔵文化財分布地図（1999千葉県教育委員会）の市原市遺跡番号912番、菊間遺跡群範囲内の南限に位置している。遺跡群の占有する台地は、北側の村田川に直接開析され、東から南側はその支谷に開析されて、約10m比高差がある。西から北側は海岸平野に面し、現標高約5mの波蝕台から波蝕崖となっている。波蝕崖は北東から南西方向に直線的に、形成されており養老川開析谷まで続く。今回調査した袖ヶ台地区遺跡は、東側から村田川支谷の侵刻谷が入り込み、谷頭にあたる（第２図）。標高は現地表面において23mを測り、字袖ヶ台地区は、周辺地域より２～３m高くなっている。遺跡の占有する台地は、海岸平野に面して細長く南北に広がっている。

第３節　歴史的環境（第１図参照）

菊間遺跡群中、当報告の袖ヶ台地区は①にあたり、②の弥生中期の環壕を有する菊間遺跡（斎木ほか1974）は、北限となる。その直ぐ南⑩は、深道遺跡（高橋1994・田所1995）となっており、連続する弥生の大集落である。また菊間古墳群がその上部に形成され、菊間遺跡と同じく報告された新皇塚古墳は、当台地北端に位置している。支谷を隔てて、⑧の菊間手永遺跡がある。縄文後期の馬蹄形貝塚上に、弥生中期集落とV字壕が検出されている（近藤ほか1987）。遺跡群ほぼ中央に⑨の雲ノ境遺跡があり、弥生時代から古墳時代の集落の一部が検出されている（大村1991）。雲ノ境遺跡検出の周溝からは、東海地方の大廓式の壺片が出土しており、古墳時代の交流を示唆している（高梨1997）。

縄文時代は、村田川右岸河口に⑤の低地に立地する千葉市神門遺跡に、早期後半条痕文期以降の生活跡が残されている（寺門ほか1991）。河口の砂州の発達により早期末から中期初頭の五領ヶ台期までの、土器石器、骨角器、焼け礫等の生業痕跡がある。⑥は実信貝塚であり、隣接遺跡の⑦県スタジアム調査では、波蝕台上から条痕文期の貝塚包含層が検出されている（小久貫ほか1999）。実信貝塚は、黒浜式土器を直下から検出する自然貝層上に形成され、中期後半加曽利ＥⅡ式から晩期後半の前浦式期まで貝塚の形成があったとされている。その間には、砂丘間でのラグーンの形成その後の埋積、低地林の発達等が連続的に地形変遷と共に起こったと考えられる（佐藤ほか1997）。

弥生時代は、海岸平野に中期宮ノ台式期から水稲耕作が始まり、海岸平野を見下ろす台地上に、そ

第１図　菊間遺跡群袖ヶ台地区位置図(国土地理院平成10年)

第２図　菊間遺跡群袖ヶ台地区地形図

の時期の集落が形成された。国分寺台遺跡群では根田代・台遺跡では環壕集落が形成されたが、㉑の向原台では、集落のみの検出であった（高橋2002）。しかし中小河川中流でも占地に寄るためか、大規模な環壕集落③の大厩遺跡等がある（三森ほか1974）。弥生時代後期になると広い沖積地から台地支谷に入り込んで、⑯の唐崎台遺跡のように市原台地奥にも集落が見られる（鈴木1981）。これら、弥生時代の集落の拡大は、後の古墳時代以降にも反映される（大村1993.）。

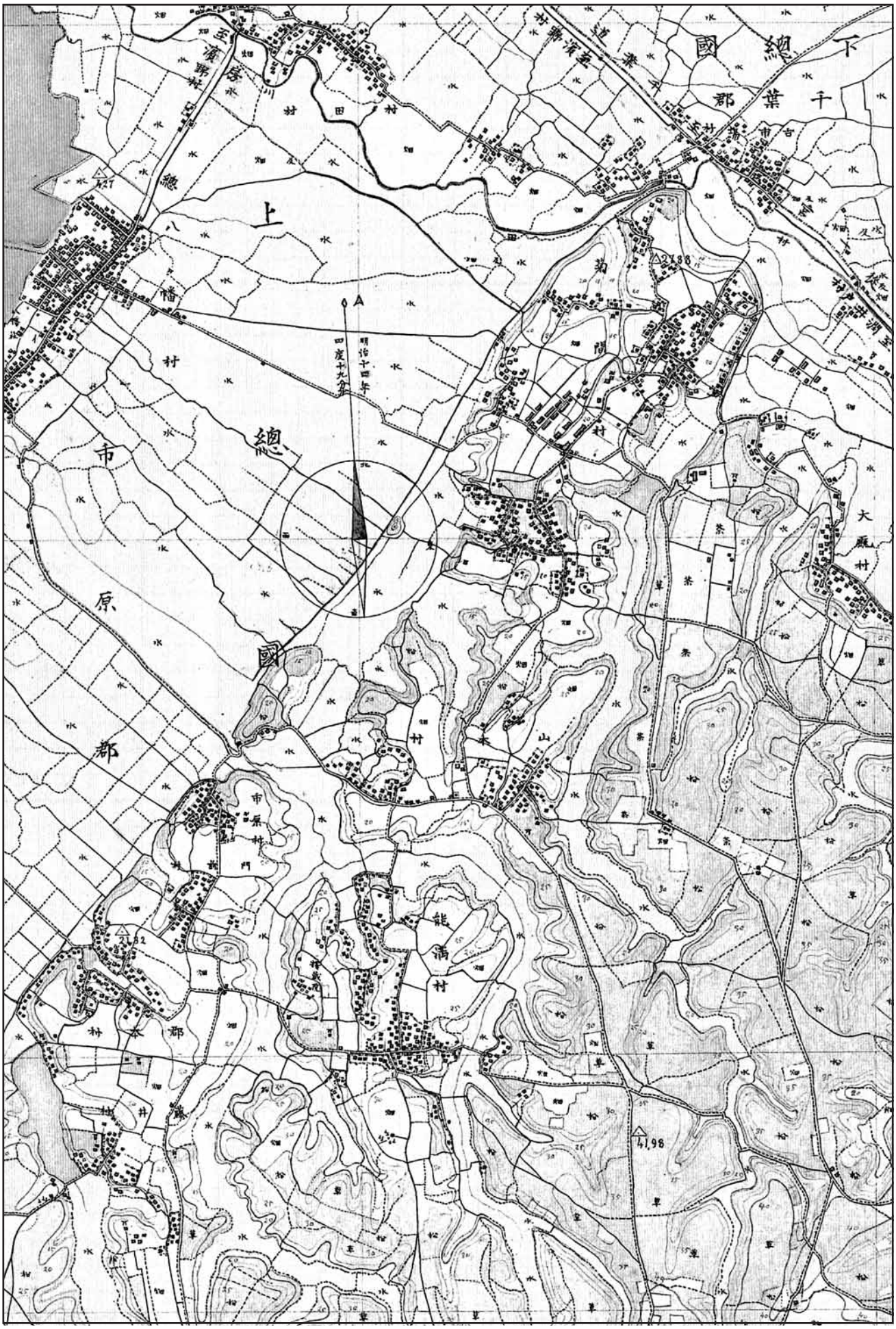
古墳時代以降には、集落等が海岸部砂丘上にも広がり、④千葉市村田服部遺跡、⑫五所四反田遺跡など中期には集落遺跡も発達する（金丸1985・近藤1991）。菊間地域は古墳時代の「国造本紀」依れば、菊麻国造（ククマノクニノミヤツコ）と呼ばれ、村田川下流域を支配し本拠地にしていたと考えられている（前之園2001）。菊間古墳群は村田川左岸地域の首長墓の集まりと考えられる（永沼1995）。

菊間遺跡群中には、菊間古墳群のほかに、菊間廃寺があり、菊間地域国造の氏寺と考えられている（須田1997）。大化の改新後、菊間地区は市原郡（評）菊麻郷となり、市原郡の中心地域からやや遠隔地となる（大谷ほか）。しかし菊間と隣接する草刈地区の川焼瓦窯跡では、上総国分寺の創建瓦を供給し、同範瓦が菊間廃寺からも出土している（田形ほか1997）。また草刈地区は草刈遺跡群として発掘調査成果が公表されており、草刈の地名も８世紀前半には成立していたことが墨書土器によって明らかになっており、弥生時代から平安時代まで継続的に集落が営まれた数少ない地区である。

菊間地区と同じく村田川左岸の隣接地区に大厩がある。台地上は弥生時代から集落が占地し、大厩弁天台遺跡や、後の古墳時代には首長墓級の大厩浅間様古墳が立地する（大村1989）（浅利ほか1997）。また正倉院に残る天平勝宝五年の丹裏文書の、上総国市原郡大倉駅家（オオクラノウマヤ）は、大厩地区を推定地としている（前之園2001）。菊間、草刈、大厩地区は、旧菊間村地域であり古代から非常に緊密な地域であることが、考古資料や文献史料によって明らかにされている（寺田ほか1978）。

中世にはいると14～15世紀の墓地が調査により検出され、菊間手永遺跡では大規模な集団墓地が発見されている（小出1997）。新皇塚古墳墳頂部には村田川河口を見下ろす場所に、応安五年紀年の宝篋印塔（将門塔　西暦1372年）があった（安藤1999）。今回調査した袖ヶ台地区は、全て八幡神社の境内地である。その八幡神社隣接の別当寺（月蔵坊徳性院墓所）には、正和三年（西暦1314年）板碑が残されていた（谷島1999）。草刈では草刈六之台遺跡において古墳利用の塚に14世紀初頭に板碑が造立され、その後集団墓地が成立している（小林1994）。大厩では琴平神社境内に延文三年（西暦1358年）の板碑が存在したことが知られている（谷島2001）。このように集落に氏墓が成立していく過程は、袖ヶ浦市神田遺跡でもみられる（當眞1995）。中世前期には菊間、草刈、大厩では、墓地の成立が確認されていることで、中世村落の成立が確実であり、菊間地域では国界と交通の要所に「市場」の想定される古市場の地区が存し、中世のムラの要素が全てそろっている（笹生1997）。

中世時期に明確な在地領主の館跡は、大厩掘ノ内館跡である（市村高男1996ほか）。菊間地区の隣接の山木には大型な白船城跡（第１図⑭）が存在するが、菊間、草刈、大厩地区では村田川左岸標高10m前後の沖積段丘上にある（第１図㉒）唯一の中世館跡である（小高1999）。立地は村田川の支流神崎川の水利権を掌握する場所にあり、大厩から菊間、八幡までの水田水利を管理していたと考えられる（市原郡誌1985・第３～４図参照）。第５図は大厩館跡であり、圃場整理後消滅のため現況図に水田部分の字切図を集成したが、館の状態を看取できる。長南町岩川館跡と同様な立地をしており興味深く、中世前期から成立していた可能性がある。（風間1990・笹生1997）。



第３図　菊間遺跡群周辺地形図(1:20,000)国土地理院迅速測図原図

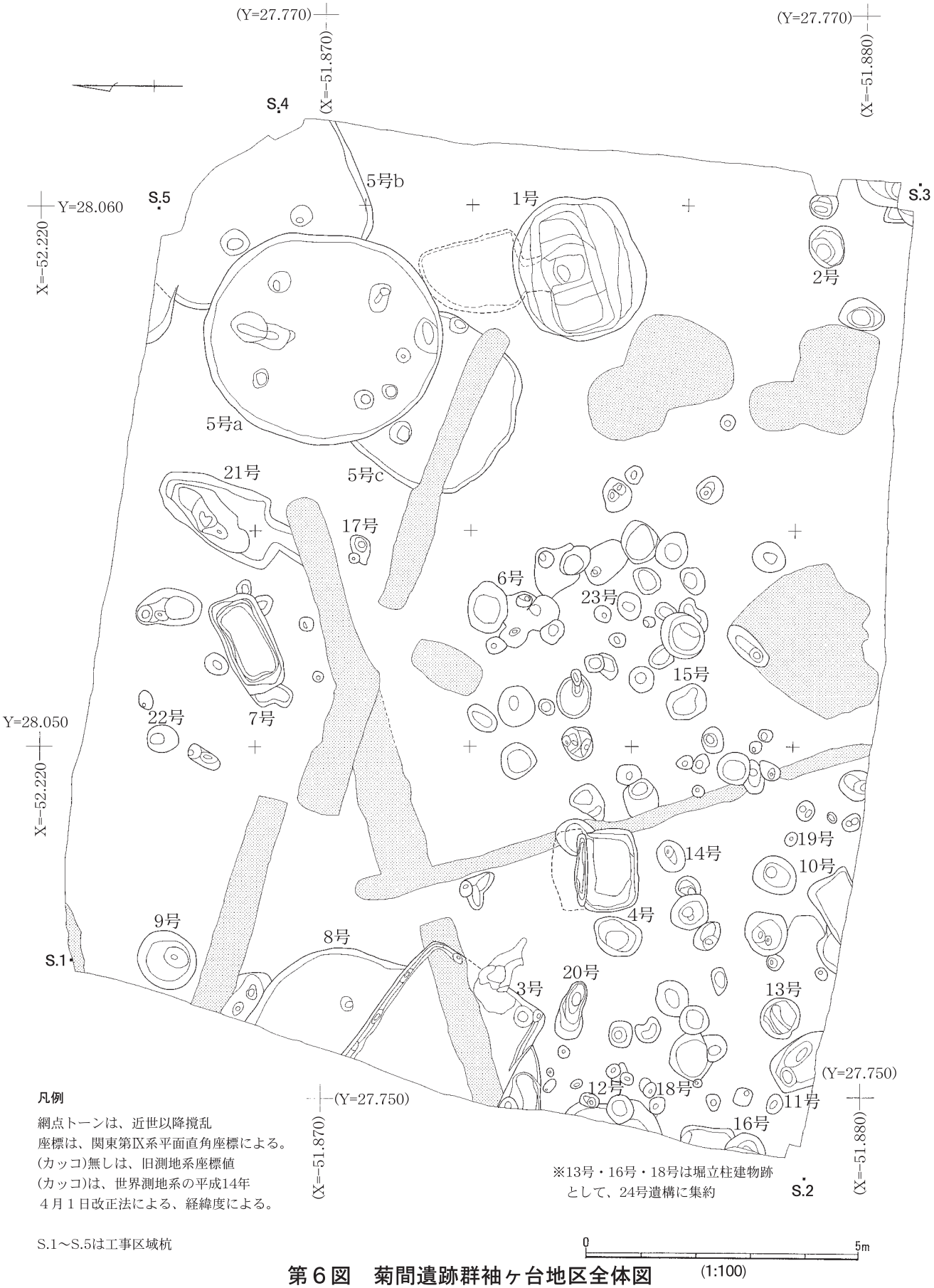
第４図　菊間及び周辺地区小字切図(1/2,000)八幡町・菊間村耕地整理基本調査実測図と昭和38年市原市8(1:3,000)の集成図

第５図　大庶館跡地形図と字切図の集成図

字の読み

堀の内	ホリノウチ	手代田	テシロダ	やしき	ヤシキ	後　谷	ウシロヤツ	門	カド
沼の門	ヌマノカド	淵　敷	フチシキ	クネザキ	クネザキ	宮　田	ミヤタ	打穂町	クチホマチ
長　田	ナガタ	家の下	イエノシタ	清水尻	シミズジリ	平　方	ヒラカタ	樋の口	トヨノクチ
八幡田	ハチマンデン	日吉田	ヒヨシデン	ニタ町田	フタマチダ	産　沼	サンヌマ	大　沼	オーヌマ
島　崎	シマザキ	入　流	イリナガシ	行　淵	ギョーブチ	岸目木	ガンナギ	北野崎	キタノザキ(菊間)
本　郷	ホンゴー	川　上	カワカミ	坪　台	ツボダイ	川上台	カワカミダイ	赤ホッケ	アカホッケ
鍛冶屋前	カジヤマエ	下　郷	シモゴー						

(寺田廣・藤原文夫1978.3「千葉県市原市地名集」)より



第６図　菊間遺跡群袖ヶ台地区全体図

第４節　調査の方法

調査は工事対象地の伐採を施工者にお願いし、有無の確認のため市原市教育委員会ふるさと文化課が、試験堀削を行い、土師器などの遺物を得た。そのため本調査の協議に入り、施工範囲の確定と、八幡神社境内園地のため、植栽の移植が行われた。引き続き、平成15年２月17日より本調査に移行し、旧園地のコンクリート池、国旗掲揚台等の破砕、移動を行い、重機械による表土除去を開始した。

調査対象地は北西から南東方向に傾斜しており、傾斜の要因は、北西側の客土にある。しかし、ソフトローム上面も若干ではあるが傾斜している。客土、表土灰褐色土層を除去した段階に於いて、遺物の散布、及び江戸宝永火山灰の面的散布が確認され、カマド遺構の可能性が高い粘土の集積が認められたので、重機械による掘削を遺構確認面として止めた。しかし遺構確認面は、ローム漸移層である暗褐色土層から、暗灰褐色土層中になり、３号住居跡、１号遺構等が目視できる程度である為、さらに遺構の精査を補助員作業によって進めることにした。この段階に於いて遺構覆土が黒色以外の暗褐色等の５号遺構、７号遺構が検出され、撹乱等の不明部分から新たに遺構が検出された。６号から４号付近は暗褐色土と、宝永火山灰が広がる部分で、面的な遺構が検出できないため、遺構の可能性のあるプランを若干下げる方法で遺構確認を進めた。その段階で暗褐色土層中から縄文前期の土器片が多く検出されている。結果的には６号遺構は２間×３間の掘立柱建物跡となった。遺構検出中に関東第Ⅸ系座標の基準点測量が行われ、水準測量杭もあわせて設置することとなった。

第Ⅱ章　検出された遺構と遺物

検出された遺構、遺物は遺構一覧、遺物観察の各表に詳細記載されているので参照して頂きたい。

第１節　縄文時代

縄文時代の遺物は、第７図に掲載してあるものが出土したほとんどである。調査の方法で述べたとおり、ローム漸移層から、暗褐色土層中に包含層がある。その他は縄文以降の遺構覆土から出土したもので、縄文時代遺構は検出されなかった。遺物は図示土器片と、一点黒曜石製のチップがあるのみである。縄文時代前期末の浮島式から、興津式、中期初頭の下小野式があり、量的に少ないが時期的にはまとまっている。この傾向は村田川右岸の千原台遺跡群でも見られ、台地上に遺構は少なく（伊藤ほか2003)、市原市内では北旭台遺跡に集落の検出がある（木對1990)。第７図１、２は花積下層式と考えられ､当該期は村田川最上流土気遺跡群に集落跡が調査されている(寺門1992・寺門・小川1993)。７図下は、当該時期の土器の概略図であり出土した土器ではない注釈⑴。a・bは浮島式、３～19はこの器形となるだろう。ｃ・ｄは出土遺物は小片で23に該当する。28～31は縄文施文の興津式で、ｆの器形になると思われる。23を除く20～27は下小野式と考えられる（西村1984)。

第２節　弥生時代

弥生時代と考えられる遺構は６遺構となり、そのうち竪穴式住居跡は５軒あり、５号遺構は４軒重複している。５号ａが最新であり、その直下を拡張したと考えられる５ｄがあり、それらに切られた５号ｂと５号ｃがある。遺物が少なく各所属遺物に於いて新旧時期は判断できない。８号は１/３ほどの調査にのみであるが、５ａとほぼ主軸同方向に位置している。第８図１・２は５号ａから出土している。５号ｄからは図示できる出土遺物が無く、甕の小片のみ出土している。５号ｄ拡張後、貼床が張られ５号ａが建てられ、d時期の柱穴は検出できなかった。第９図１は５号ｂの出土であり、図示された遺物のうち、２～８までは８号ｃ出土遺物で、その他は５号一括遺物としている。２の小型甕は、

地床炉の焼土上につぶれた状態で出土している（図版３－④）。５号は弥生後期と考えられる。

第９図下の８号は、調査区西側において平安時代の３号に破壊され、また調査区外に２/３ほど残存している。遺物は小片が多く、21は３号の混入と思われる。22は床直上出土の、多孔質石材を利用した砥石と考えられる。主柱穴は１本のみの検出で、3号に深く破壊されており他は不明である。南側の穴は貯蔵穴の可能性がある。床破線内側は床硬化面となっており、貼床はされていない。出土遺物から、弥生時代後期と考えられる。

第11図７号は、方形プランにそれに沿う状態でロームブロックが充填されており、土坑墓と考えられる。しかし遺物は土器小片のみであり、副葬された遺物は検出されなかった。ロームブロック範囲は、棺の裏込め痕と推測されるが棺形態は特定できなかった。覆土、検出遺物から弥生時代と考えたが、周囲には溝等の確認はできないので単独の土坑墓と思われる。

第３節　奈良・平安時代

第10図は３号遺構で、ほぼ南東方向にカマドを有する竪穴住居跡である。重機による表土剥ぎ時にカマドの粘土が観察され遺構確認面が最も高い位置にあった。覆土は黒色であり重複した弥生時代の住居跡覆土の暗褐色より識別が明瞭である。竪穴住居跡は３ｍ四方足らずで、床面は踏み固められているが、柱穴は検出できない。壁際にカマド部分と貯蔵穴部分を除き溝が四周する。襷掛け方向に近世時期の溝が入り撹乱を受けている。遺物は10図１の杯がほぼ床直上で検出され住居時期を示すと考えられ、10世紀前半時期が与えられる。カマドは住居廃絶時に破壊されたと思われ、10図18の甕が図左側に示すように、カマド、貯蔵穴、床の3地点から接合する状態で検出され、廃絶時に何らかの祭祀的行為の痕と考えられる（小橋2002）。第11図１は鉄鏃の柄部分と推測される。弥生時代の遺物の混入は8号住居所属と思われる。

第11図21号遺構は土坑が複数重複していると考えられる。出土遺物は3号遺構と同時期の杯の破片が出土している。遺構確認面に橙色焼土を検出しているが、性格は不明である。

第12図は地下式土坑墓と考えられ、縦坑が12図上の状態で検出された。覆土上部は黒色土に充満され、第12図１の長頸壷の頸から上部分が検出された（図版６－①）。縦坑下部はロームブロック、黄褐色ロームが充填され、何らかの遮蔽物において、地下式坑の入り口部分を塞でいたと考えられる。事実、縦坑掘削の際は、地下式横穴は空間が若干残っていた。遺物は当該時期に限定できる須恵器の杯の破片が出土しており、８世紀になると考えられる。同時期の類例が、稲荷台遺跡に検出されている（浅利2003）。出土遺物はほかに弥生土器片、土玉が出土している。

第13図の４号遺構は広く有天井土坑と呼称される遺構で、6号遺構である掘立柱建物跡の一部柱穴を撹乱して掘削されている。出土遺物は小片であり、副葬された可能性のあるものはない。天井のある横穴の縦坑縁には、浅い溝状の一条の溝があり、板状遮蔽物の差し込む痕の可能性がある。

第14図２号遺構は、調査区南東隅に検出され、柱穴痕を確認したため掘立柱建物跡とした。推定では、６号掘立柱建物跡の棟方向主軸線と直行する位置にある建物となる。時期を明確に表す出土遺物はなく、14図30が大型の高杯脚部分ではないかと思われる。

第14図24号は、13、16、18号遺構を掘立柱建物跡の柱穴としてまとめ、一遺構にしたものである。6号掘立柱建物跡の棟方向とほぼ同じ主軸を持っている。出土遺物に当該時期はなく、弥生土器の破片が出土している。しかし、調査区南西隅にあたり、第17図の布目瓦の出土地点でもある。

第15図６号遺構は、３棟の掘立柱建物跡内全体を調査できたものである。棟方向はほぼ東西方向の主軸を有している。遺構確認面は暗褐色土層上面にあり、柱穴は若干明るい程度の覆土であり、検出に困難なため、可能性のあるプランをすべて一段下げて遺構確認を行った。そのためこの付近は土坑の検出が増えた。主柱穴は８本の２間×３間の掘立柱建物であるが、第16図の配列を見ると、束柱と考えられる土坑も存在する可能性がある。しかしどれも浅く確定はできなかった。ピット状で遺構番号があるのは、遺物を検出したため整理の都合上付したものである。柱穴はプランを一段下げた段階で、柱痕の明確なものは平面図に記録して、その後に半裁して断面による柱痕の確認をして断面図に記録する方法を採り、ほぼ一直線上に重なる柱痕検出した。

出土した遺物は縄文、弥生土器が多く、包含層や周辺の遺構から混じったものが多いと考えられる。しかし、周辺に奈良時代に相当する遺構は１号の地下式土坑墓のみのため、須恵器の当該期の遺物は６号に帰属すると考えられ、掘立柱建物跡は奈良時代と推測される。遺構確認面には焼土粒、木炭粒等が多く確認されたが時期特定はできない。15図-30はカマドの支脚片と考えられるがカマドの検出はなく、置きカマドの検出もなかった。３間の中央部分の柱間が若干広いことは関心がもたれる。

第16図は調査区西半分の平面図であり、左上に９号遺構がある。９号は円筒状の土坑で、遺物は弥生土器の小片のみである。形態からは菊間手永、雲ノ境遺跡検出の10世紀時期の土坑に酷似している。覆土の埋没状態は、掘削後まもなく埋められた状況を示している。

10号遺構は断面から掘立柱建物跡に近い時期である可能性が高い。出土遺物も土師器のみの出土であり、長軸は6号主軸に並行する。11号は断面状態から近世時期の可能性が高く、出土遺物も弥生土器である。12号遺構は重複する遺構の一部であるが、第17図-⑩の須恵器の坏蓋が出土しており、６、24号掘立柱建物跡に関連する遺構の可能性が高い。

第17図下、表面採集遺物は重機械表土剥ぎ作業最中に検出されたもので、明確な出土地点がないものを一括した。布目瓦は前述のとおり24号付近の採集である。21～23は近世の火燵の炉と考えられ、近世の撹乱もあることから当時に混入したものと思われる。

第４節　中近世

中近世に該当する遺構は第６図全体図の網点部分の撹乱とされる部分である。前述したすべての遺構を切る状態で検出されている。すべて断面方形の溝状遺構である。覆土は灰褐色土層であり、宝永火山灰の検出はなく、時期の特定はできなかった。方向性があり、２条ほぼ東西方向となっている。宝永火山灰の分布が面的にこの溝より南側において見られたため、耕作に関連した溝の可能性がある。菊間八幡神社は市原市の指定文化財になっており、指定と部分修理の際調査が行われ、建物は江戸時代建築であるが、その前から建物が存在していた（滝本1999）。また本殿から中世前半期までさかのぼる神像２体が発見されたことから、境内地部分は古く中世から利用されていた可能性が高い。

第18図は明治年間に地元画家の作者の肉筆原図を元に別に印刷された八幡神社の俯瞰図である。肉筆原図は八幡神社に保管され、印刷物原図から新たに版を起し直して印刷されたものの１/２の図である。今回の調査地区は、拝殿本殿背後の図に向かって右側隅奥に当たる。現在の字袖ヶ台地区は、第２図に示した網点部分であるが、18図左下の植林部分は字主座窪（シュザクボ）となっている。その境界の道部分は流鏑馬のための儀式場であった。現在は市道に移管され、字からは外されている。袖ヶ台地区は周りの地形より一段高いが、調査では盛り土の痕跡はない。

第Ⅲ章　ま と め

第Ⅰ章第３節の歴史的環境のおいて述べたように、第３図の菊間と、大厩および草刈地区は、弥生時代から村田川を挟みながら非常に強い結びつきを有し、古墳時代には菊間を中心とした国造制の首長本拠地に拡大する地域である（小高1989・大村1993）。それらは律令制の時代に入って、中心地区が第３図左下の郡本、藤井、能満地区に移動したとしても、中世時期には新しい地域の核としての集団として再生されていた（笹生1997）。

五所、郡本、藤井、山田橋は市原郡衙、上総国衙推定地として歴史地理的調査が行われている。菊間、大厩、草刈地区は大規模な開発行為等のために、埋蔵文化財調査が進められてきた。市原条里制遺跡は、郡本市原地区から菊間地区まで５㎞続く広い地域に当たり、第３図の明治初期まで明確な条里地割が看取できる地域だった。昭和の戦前までは、第４図に見る限り村田川左岸海岸平野部において河川に沿って段丘形成が見られるが、概ね古代の地割が中世時期まで踏襲されていたことが理解できる（大谷1997・笹生1997）。

古代東海道のルートがまだ判然としないが､江戸時代の房総往還と同じような海岸砂丘列部分に沿ってあったとすれば､引込み線のような幹道が市原古道遺跡となる（大谷ほか1997）。それと同じように、上総、下総国境の現茂原街道旧道下に検出された側溝を有する道路跡と推定される遺構は、真っ直ぐに大厩地区に延びている（大谷1993）。大厩は駅家推定地であり、在庁（ザイチョウ）所以の小字が２箇所残っており、興味がもたれる。

歴史的環境にも触れたが、大厩には第５図の中世館跡が所在している。その位置は、神崎川を用水路とし村田川を排水路として、掛け樋を利用して農業用水の勧農権を有し、市原条里まで導水を行っていたと考えられる都合の良い立地にある（市原郡誌1985）。中世時期には多くの水田では乾田化が進み、水田農耕の革新が進んでいる（近藤2001）。

中世には菊間より海岸部の八幡に、街道沿いに町が発達し始めている（櫻井2003）。その八幡宿から真っ直ぐ伸びた道路の台地に当たる部分が、菊間袖ヶ台地区である。この部分は菊間八幡神社の別当寺の問題もあり、今後の課題である（瀧本2001）。湾港を有する上総の八幡と、すぐ隣の下総の浜野中世城郭との関連は新しい視点の研究が進んでいる（簗瀬2000）。

菊間遺跡群袖ヶ台地区の発掘調査面積は、僅かに240㎡である。同時期に調査した菊間遺跡群東関山古墳下層はさらに小規模であったが、銅釧が４点まとまって出土し、注目された。過去草刈川焼台遺跡には、弥生時代の小銅鐸が２点出土している。すべてが弥生時代の産物である。上総には弥生時代の銅製品が多く出土するが、旧菊間村内は質、量とも群を抜いている。上総地域の村田川下流域では発掘調査時、弥生時期の遺構が多く検出されるが、隣接の下総地域千葉市東南部ではほとんど調査検出例がない。千葉県文化財センター調査の上総地域、ちはら台ニュータウン開発地区と、隣接の下総地域千葉東南部ニュ―タウン開発地区では、弥生時期遺構検出の差は歴然としている。大きな川もなく、高い山もないが、見えない壁が弥生時代に下総と上総の境界にあったことになる。菊間遺跡群は、７ヶ所以上となる調査地点全てに弥生時代遺構を検出しているため、草刈遺跡群に匹敵する弥生時代の大集落跡である事が推測される。

註　　釈

（1）　挿図中の縄文土器下半の縄文土器概略図は、高野博光氏作成による図であり、土器片理解のため掲載させて頂いた。

（2）　元、八幡の水利組合にあり、現在飯香岡八幡宮に表装して保管されている。平成５年当時、宮司の市川教生氏より拝借して、写しを撮り、写しは市原市文化財センターに保管している。昭和２０年代前半の圃場整備における図面である。

引用参考文献

「千葉県市原郡八幡町外二個町村耕地整理基本調査実測図　縮尺三千分之一」旧八幡町・菊間村の水田耕地整理の基本図（２）

三森俊彦・阪田正一・沼沢豊・矢戸三男・菊池真太郎ほか　1974.2『市原市大厩遺跡』㈶千葉県開発公社㈶千葉県都市公社

斉木　勝ほか　1974.3「第２部菊間遺跡」『市原市菊間遺跡』千葉県都市部財団法人千葉県都市公社

寺田　廣・藤原文夫　1978.3『千葉県市原市地名集』市原市教育委員会

小林健太郎　1980.4「地籍図にみる中世の豪族屋敷村」『地理』vol.25,.N0.4古今書院

鈴木英啓ほか　1981.3『唐崎台』唐崎台遺跡発掘調査団　市原市教育委員会

市原郡教育会編　1985.7「第二部町村誌　菊間村」『千葉県市原郡誌』株式会社国書刊行会

佐藤甚次郎　1983.7「明治前期の地籍図類の利用にあたって」『地理』vol.28,N0.7古今書院

山口直樹　1984.3「奈良・平安時代の遺構と遺物」『小田部新地遺跡』㈶市原市文化財センター

西村正衛　1984.12「茨城県稲敷郡浮島貝ヶ窪貝塚」「茨城県北相馬郡取手町向山貝塚」「茨城県稲敷郡美浦村興津貝塚」「千葉県市川市国分旧東練兵場貝塚」「千葉県香取郡小見川町白井雷貝塚」石器時代における利根川下流域の研究』早稲田大学出版部

金丸　誠ほか　1985.3『千葉市村田服部遺跡』建設省関東地方建設局千葉国道事務所・㈶千葉県文化財センター

川戸　彰　1986.3「中世の市原文化　石造物」『市原市史中巻』市原市

近藤　敏ほか　1987.3『菊間手永遺跡』㈶市原市文化財センター

金丸　誠・山口典子　1988.3『千葉市浜野川遺跡群』千葉県土木部河川課・千葉市教育委員会文化課・㈶千葉県文化財センター

小高春雄ほか　1989.2「農耕社会の定着と発展」『房総考古学ライブラリー４　弥生時代』㈶千葉県文化財センター

大村　直　1989.3『市原市大厩弁天台遺跡』㈶市原市文化財センター

木對和紀　1990.3「遺構と遺物縄文時代」『市原市北旭台遺跡』㈶市原市文化財センター

風間俊人・津田芳男　1990.3「岩川遺跡」『岩川・今泉遺跡』千葉県茂原土地改良事務所

寺門義範・村田六郎太　1991.3『千葉市神門遺跡』千葉市教育委員会・㈶千葉市文化財調査協会

大村　直　1991.3「雲ノ境遺跡」『不特定遺跡発掘調査報告（２）』㈶市原市文化財センター

近藤　敏　1991.3「五所四反田遺跡」『第６回市原市文化財センター遺跡発表会要旨平成２年度』㈶市原市文化財センター

寺門義範　1992.3「第２章第２節縄文時代草期・前期」『土気南遺跡群Ⅱ　弥三郎第２遺跡』㈶千葉市文化財調査協会

笹生　衛　1993.3「第6章第３節葬送」『房総考古学ライブラリー７歴史時代（１）』㈶千葉県文化財センター

寺門義範　1993.3「弥三郎第１遺跡」・小川和博「文六第１遺跡」『土気南遺跡群Ⅳ』㈶千葉市文化財調査協会

大村　直　1993.3「ムラの廃絶・断続・継続」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』㈶市原市文化財センター

大谷弘幸　1993.8「茂原街道に隣接した溝跡について」『研究連絡誌第38号』㈶千葉県文化財センター
小林信一　1994.3「中近世の遺構・中世墓域」『千原台ニュータウンⅥ―草刈六之台遺跡』㈶千葉県文化財センター
高橋康男　1994.3「菊間深道遺跡」『平成５年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
永沼律朗　1995.3『千葉県重要古墳群測量調査報告―市原市菊間古墳群－』千葉県教育委員会
田所　真　1995.3「菊間深道B地点」『平成６年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
當眞紀子　1995.3『千葉県袖ヶ浦市神田遺跡・神田古墳群』㈶君津郡市文化財センター
櫻井敦史　1995.5「八幡・五所地域の中世石造物」『市原市文化財センター研究紀要Ⅲ』㈶市原市文化財センター
市村高男ほか　1996.3「房総に於ける中世城館跡の地域的時代的分布とその特質」「城館跡一覧表・大厩館跡」『千葉県所在中近世城館詳細分布調査報告Ⅱ―旧上総・安房地域―』千葉県教育委員会
田形孝一・立和名明美　1997.3「草刈遺跡」『千葉県の歴史資料編考古３(奈良・平安時代)』千葉県
田形孝一　同　上　「川焼瓦窯跡」　同　上
大谷弘幸・田所　真　同　上「19市原古道遺跡」　同　上
大谷弘幸　同　上「20市原条里制遺跡」　同　上
須田　努　同　上「28菊間廃寺」同　上
笹生　衛　1997.3「村の生活」『千葉県の歴史　資料編　中世１考古資料』㈶千葉県史料研究財団
柴田龍司　同　上「中世城郭」　同　上
半田堅三　同　上「13台遺跡」　同　上
笹生　衛　同　上「14草刈六之台遺跡」　同　上
笹生　衛　同　上「15市原条里制遺跡」　同　上
笹生　衛　同　上「59岩川館跡」　同　上
簗瀬裕一　同　上「83南屋敷遺跡」　同　上
高梨俊夫　1997.3「大廓式土器の足跡―もう一つの東海系―」『研究連絡誌49号』㈶千葉県文化財センター
佐藤　隆・新田浩三　同　上「市原条里制遺跡（県立スタジアム）の調査成果」『研究連絡誌49号』同上
櫻井敦史　1997.3『白船城跡Ⅱ』㈶市原市文化財センター
小出紳夫　1997.3「菊間手永遺跡」『平成８年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
浅利幸一・田所　真　1997.3『市原市大厩浅間様古墳』㈶市原市文化財センター
安藤　登　1999.3「円満寺石造宝篋印塔について」『市原地方史研究第19号』市原市教育委員会
谷島一馬　同　上「市原の板碑拓本集」　同　上
瀧本平八　同　上「八幡神社修理工事に関する覚書」　同　上
小高春雄　1999.8「白船城跡」「大厩掘ノ内」『市原の城』編集発行小高春雄
小久貫隆史・加納　実・高梨友子　1999.10「菊間地区」『市原市市原条里制遺跡』㈶千葉県文化財センター
簗瀬裕一　2000.7「小弓公方足利義昭の御座所と生実・浜野の中世城郭」『千葉城郭研究』第６号
近藤　敏　2001.3「宮原遺跡Ａ・Ｂ地点」『市原市文化財センター年報10年度』㈶市原市文化財センター
前之園亮一　2001.10「菊間国造について」『市原市菊間周辺の文化財』市原市地方史研究連絡協議会
谷島一馬　同上　「菊間地区及びその周辺の板碑について」　同上
瀧本平八　同　上「菊間地区の史跡について」　同　上
高橋康男　2002.3「終章まとめにかえて」『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』㈶市原市文化財センター
小橋健司　2002.9『市原市加茂遺跡D地点』旭硝子株式会社・市原市文化財センター
伊藤智樹・西野雅人・大谷弘幸　2003.3『千原台ニュータウンⅧ―市原市草刈遺跡―（東部地区縄文時代）』都市基盤整備公団・㈶千葉県文化財センター
浅利幸一ほか『市原市稲荷台遺跡』2003.3　市原市教育委員会　㈶市原市文化財センター
櫻井敦史　2003.3「県内における中世村落の発展について」『市原市文化財センター研究紀要Ⅳ』㈶市原市文化財センター

遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	形態・形状現況	時代	規模（m）		主軸方位	主柱穴間の距離（m）			
				縦軸	横軸		P1～P2	P3～P4	P1～P3	P2～P4
地下式壙	1	縦坑横穴	奈良	2.6	2	W-17.5°-N				
掘立柱建物跡	2	一部調査	奈良			W-35°-N	1.5			1.8
竪穴住居跡	3	カマド半壊	平安	2.4	2.5	E-126°-S				
有天井土壙墓	4	６号を切る	奈良以後	1.5	1	W-1.5°-N				
竪穴住居跡	5ａ	新	弥生	4.15	3.7	N-10°-E	1.8	1.8	1.9	
竪穴住居跡	5ｂ	ａに切られる	弥生	3	3.2	N-67.5°-E				
竪穴住居跡	5ｃ	ａに切られる	弥生		4	W-55°-N		1.3		
竪穴住居跡	5ｄ	ａの拡張前	弥生			N-20°-E				
掘立柱建物跡	6	４号に切られる	奈良	6.7	3.3	N-67.5°-E	2.6	2.6	3.3	3.3
土壙墓	7	木棺直葬	弥生	1.9	0.9	N-67°-E				
竪穴住居跡	8	３号に切られる	弥生	推計5.8	推計4.5	N-24°-S				
土壙墓	9	円形	平安							
土坑	10		平安							
土坑	11		平安							
土坑	12		奈良							
掘立柱建物跡（24）	13		奈良							
土坑	14		奈良							
土坑	15		奈良							
掘立柱建物跡（24）	16		奈良							
土坑	17		平安							
掘立柱建物跡（24）	18		奈良							
土坑	19		奈良							
土坑	20		奈良							
土坑	21		平安							
土坑	22		平安							
土坑	23		平安							
掘立柱建物跡131618	24		奈良			N-61°-E	2	1.8		

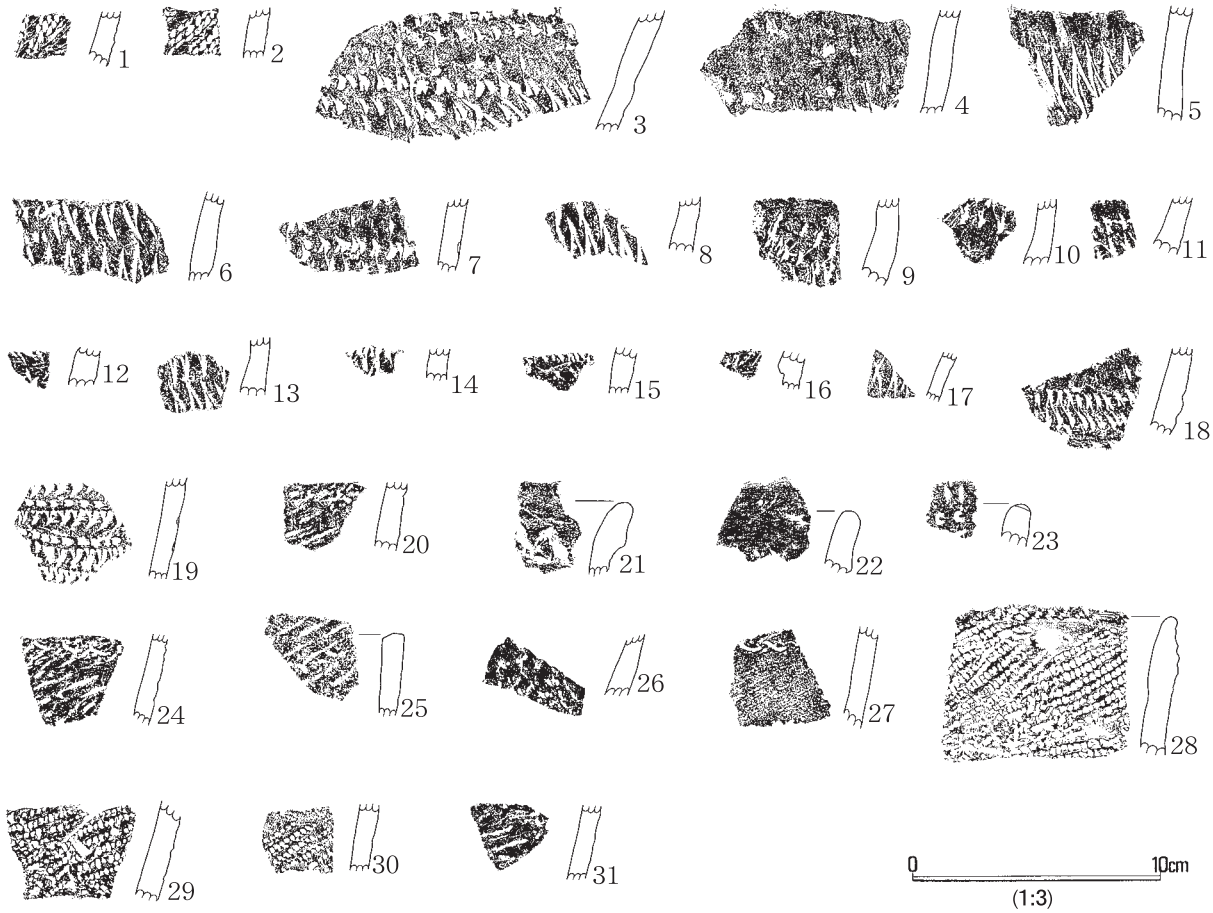
遺物観察一覧表

挿図番号	遺物番号	出土遺構	種別	器種・部位	遺存度	法量単位mm〔()は復元値〕						技法			胎土	色調	焼成	備考	図版番号
						口径	底径	器高	頸高	胴径	最大径	内面	外面	底外面					
7	1	11号-7	縄文土器(花積下層)	深鉢(胴部)	小破片							ヨコナデ	縄文原体圧痕		黒色繊維	淡灰褐色	良好		8上
	2	13号-1	縄文土器(花積下層)	深鉢(胴部)	小破片							ヨコナデ	縄文原体圧痕		黒色繊維	淡灰褐色	良好		8上
	3	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							剥落	波状貝殻文+三角文		細粒砂	表面灰褐色・内面橙色	良好		8上
	4	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							ミガキ	波状貝殻文+三角文		細粒砂	表面灰褐色・内面褐色	良好		8上
	5	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表内面灰褐色	良好		8上
	6	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	7	3号-13一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							ヨコミガキ	波状貝殻文+三角文		細粒砂	表面灰褐色・内面褐色	良好		8上
	8	6号-23	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	9	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	10	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	11	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	12	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							ミガキ	波状貝殻文		細粒砂	表黒褐色・内橙色	良好		8上
	13	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							ヨコミガキ	波状貝殻文		細粒砂	表灰褐色・内橙色	良好		8上
	14	17号-2	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							ミガキ	波状貝殻文		細粒砂	表灰褐色・内橙色	良好		8上
	15	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							ミガキ	波状貝殻文		細粒砂	表褐色・内橙色	良好		8上
	16	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	波状貝殻文		細粒砂	表褐色・内橙色	良好		8上
	17	2号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							ミガキ	波状貝殻文		細粒砂	表灰褐色・内暗褐色	良好		8上
	18	6号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	変形爪形文		細粒砂	表灰褐色・内橙色	良好		8上
	19	1号一括	縄文土器(浮島)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	変形爪形文		細粒砂	表黒・褐色・内淡橙色	良好		8上
	20	7号-2	縄文土器(下小野)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	右上がりの浅い無節縄文		細粒砂	表淡橙色・内淡灰褐色	良好		8上
	21	17号-2一括	縄文土器(下小野)	深鉢(口縁部)	小破片							ヨコミガキ	丸棒状口唇部下三角文		細粒砂	表褐色・内橙色	良好		8上
	22	6号-23	縄文土器(下小野)	深鉢(口縁部)	小破片							ヨコミガキ	丸棒状口唇部下三角文		細粒砂	表淡橙色・内橙色	良好		8上
	23	7号-2	縄文土器(興津)	深鉢(口縁部)	小破片								丸棒状口唇部下半裁竹管文		細粒砂	表淡橙色・内灰褐色	良好		8上
	24	5号一括	縄文土器(下小野)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	水平ループ結節無節縄文		細粒砂	表淡橙色・内灰褐色	良好		8上
	25	5号a-8	縄文土器(下小野)	深鉢(胴部)	小破片							剥落	剥落無節縄文？		細粒砂	表淡橙色・内淡橙色	良好		8上
	26	5号一括	縄文土器(下小野)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	単節縄文施文後ナデ		混和物少	表淡褐色・内淡橙色	良好		8上
	27	1号一括	縄文土器(下小野)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	浅い縄文結節		砂礫	表淡褐色・内灰褐色	良好		8上
	28	5号a-14	縄文土器(興津)	深鉢(口縁部)	破片							ヨコミガキ	口唇上と表単節縄文		混和物少	表黒・褐色・内黒褐色	良好		8上

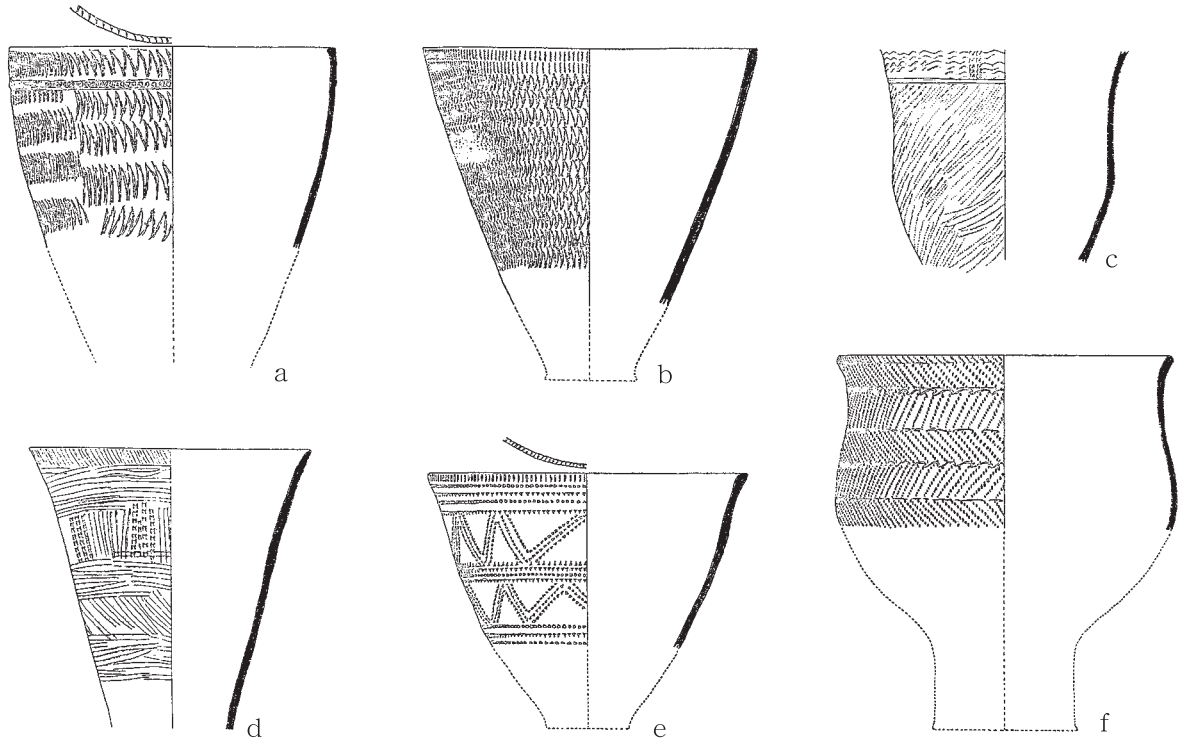
挿図番号	遺物番号	出土遺構	種別	器種・部位	遺存度	法量単位mm〔()は復元値〕						技法			胎土	色調	焼成	備考	図版番号
						口径	底径	器高	頸高	胴径	最大径	内面	外面	底外面					
7	29	9号-2	縄文土器(興津)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	単節縄文		混和物少	表灰褐色・内淡橙色	良好		8上
	30	5号一括	縄文土器(興津)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	単節縄文		混和物少	表淡橙色・内淡橙色	良好		8上
	31	21号-1	縄文土器(興津)	深鉢(胴部)	小破片							タテミガキ	無節縄文？		細粒砂	表淡橙色・内淡橙色	良好		8上
8	1	5号a-6	弥生土器(後期)	小型浅鉢	1／8残存	125	73	37				ヨコナデ	ヨコナデ	指頭整形	小砂礫	表灰褐色・内淡橙色	良好		8下
	2	5号a-5	石器(硬質細粒砂岩)	砥石・磨石(被熱赤化)	割礫	41	45	15.7				側縁叩き	表裏擦り跡		44.8g	表淡白褐色・内赤褐色		縄文？	8下
9	1	5号b-35	弥生土器(後期)	壷(口縁部)	破片							ヨコミガキ	浅い縄文RL		混和物少	表淡褐色・内赤彩	良好		8下
	2	5号c炉上	弥生土器(後期)	小型甕(被熱)	4／5残存	135	54	80	65	117	口縁部	ヨコナデ	口唇部ヘラ刻み・縦ヘラナデ	ヘラナデ	砂礫	表灰褐色・内橙色・黒	良好		7下・10上
	3	5号c-25	弥生土器(後期)	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇部ヘラ刻み・横ヘラナデ		砂礫	表灰褐色・内淡橙色	良好		8下
	4	5号c-52一括	弥生土器(後期)	甕(頸部)	小破片							ヨコナデ	輪積み痕装飾・ヨコナデ		砂礫	灰褐色	良好		8下
	5	5号c-26	弥生土器(後期)	甕(頸部)	小破片							ヨコナデ	輪積み痕装飾・ヨコナデ		砂礫	灰褐色	良好		8下
	6	5号c-52一括	弥生土器(後期)	甕(頸部)	小破片							ヨコナデ	輪積み痕装飾・ヨコナデ		砂礫	灰褐色	良好		8下
	7	5号c-23	弥生土器(後期)	甕(頸部)	破片							ヨコナデ	輪積み痕装飾・ヨコナデ		砂礫	表淡橙色・内灰褐色	良好		8下
	8	5号c-32	弥生土器(後期)	高坏(脚部底付部分)	破片							ヨコナデ	ヘラミガキ		橙粒混入	灰褐色	良好		8下
	9	5号一括	弥生土器(後期)	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇部ヘラ刻み・横ヘラナデ		砂礫	表黒褐色・内淡褐色	良好		8下
	10	5号一括	弥生土器(後期)	甕(頸部)	破片							ヨコナデ	輪積み痕装飾・ヨコナデ		砂礫	灰褐色	良好		8下
	11	5号一括	弥生土器(後期)	壷(頸部)	小破片							指整形、	鋸歯状沈線？		砂	表淡橙色・内灰褐色	良好		8下
	12	5号一括	弥生土器(後期)	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	胴部沈線・煤付き		混和物少	表黒色・内暗灰褐色	良好		8下
	13	5号一括	弥生土器(後期)	壷(頸部)	小破片							ヨコナデ赤彩	頸部羽状縄文		橙粒混入	淡灰褐色	良好		8下
	14	5号一括	弥生土器(後期)	壷(頸部)	小破片							ヨコナデ赤彩	2条平行沈線片側赤彩		橙粒混入	淡灰褐色	良好		8下
	15	5号一括	須恵器	杯(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇部ヨコナデ		灰色軟質	黒灰色	良好		8下
	16	5号一括	石器(灰色片岩)	板状	完形？								周辺調整小判形		11.2g				8下
	17	8号-5	弥生土器(後期)	壷(口縁部)	小破片							ヨコナデ	単節LR縄文原体圧痕棒状突起		白色粒混入	口唇部赤彩・褐色	良好		8下
	18	8号-3	弥生土器(後期)	高坏(杯部)	破片							ヨコナデ赤彩	沈線区画RL縄文		砂礫	内外面赤彩・淡い褐色	良好		8下
	19	8号-8一括	弥生土器(後期)	壷(胴部)	小破片							ヨコナデ	集合沈線・施文具刺突		砂	表赤褐色・内灰白色	良好		8下
	20	8号-6	弥生土器(後期)	壷、(底部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ	摩滅不明	砂	表灰褐色・内暗灰褐色	良好		8下
	21	8号-8一括	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		混和物少	表灰褐色・内暗灰褐色	良好		8下
	22	8号-4	石器(変成流紋岩)	変形砥石	完形								棒状部回転？擦過砥石		121.2g	灰白色発泡鉱物			8下
10	1	3号-1	ロクロ土師器	杯(3点接合)	ほぼ完形	123	41	37			口縁部	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り後ヘラ削り	砂礫・シャモット	内外面淡い褐色	良好		7下・9下
	2	3号一括	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片	(133)					口縁部	回転ナデ	回転ナデ		白色粒・シャモット	内外面褐色	良好		9上
	3	3号-13	ロクロ土師器(内黒)	杯(口縁部)	破片	(123)					口縁部	黒色研磨処理	口唇部のみ黒色研磨処理		白色粒・シャモット	外面褐色	良好		9上
	4	3号-28	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片	(134)					口縁部	ミガキ	回転ナデ		白色粒・シャモット	内外面褐色	良好		9上
	5	3号-28	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片	(124)					口縁部	回転ナデ	回転ナデ		白色粒・シャモット	内外面暗褐色	良好		9上
	6	3号-20	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片	(118)					口縁部	回転ナデ	口縁部回転ナデ・下半ヘラナデ		白色粒・シャモット	内外面暗褐色	良好		9上
	7	3号-5	土師器	杯(口縁部)	破片	(112)					口縁部	ミガキ黒色処理	口唇部ヨコナデ下半器面荒れ		白雲母・砂礫	内外面灰褐色	良好		9上
	8	3号-13一括	ロクロ土師器	杯(口縁部)	破片	(119)					口縁部	回転ナデ	回転ナデ		白色粒・シャモット	内外面赤褐色	良好		9上
	9	3号-13一括	ロクロ土師器	杯(口縁部口唇部欠)	破片							ミガキ黒色処理	ナデ下半ヘラケズリ	高台欠損	混和物少	表明褐色・内黒	良好		9上
	10	3号-24	ロクロ土師器	杯(底部高台部分)	破片		75					ヘラミガキ	回転ナデ	糸切り後ヘラ削り	砂礫	表明褐色・内灰褐色	良好		9上
	11	3号-18・一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		54					回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り後ヘラナデ	細粒砂	内外面淡い褐色	良好		9上
	12	3号-4	ロクロ土師器(内黒)	杯(底部高台部欠損)	破片		(57)					ミガキ黒色処理	回転ナデ	回転糸切り後ヘラナデ	細粒砂	内外面淡い褐色	良好		9上
	13	3号一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片							回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	白色粒・シャモット	内外面赤褐色	良好		9上
	14	3号一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		(59)					回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	白色粒・シャモット	内外面暗褐色	良好		9上
	15	3号一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		(60)					回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り後無調整	白色粒・シャモット	内外面赤褐色	良好		9上
	16	3号一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		(62)					回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り後無調整	白色粒・砂礫	内外面赤褐色	良好		9上
	17	3号一括	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		(46)					回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り後無調整	シャモット・砂礫	内外面黄褐色	良好		9上
	18	3号20-19-8-16	土師器	甕(口縁部胴部)	上半部	(114)			17	131	胴部	ヘラナデ	ヘラケズリ		砂礫・白色粒	外黒褐色・内茶褐色	良好		7下・9下
	19	3号-23	土師器	甕(底部)	破片		(69)								砂礫・白色粒	外黒褐色・内茶褐色	良好		9上
	20	3号-29	土師器	甕(底部)	破片		(63)								白色粒・砂礫	内外面赤褐色	良好		9上
	21	3号一括	土師器	甕(口縁部)	破片	(234)						ヨコナデ	ヨコナデ		混和物少	内外面淡い褐色	良好		9上
	22	3号-13一括	須恵器	蓋	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		混和物少	表灰色・内灰白色	良好		9上
	23	3号一括	須恵器	杯(胴部)	破片							施釉	上半施釉		混和物少	表灰色・内灰白色	良好		9上
	24	3号一括	須恵器	？底部	小破片								ヨコナデ		混和物少	表灰色・内灰白色	良好		9上
	25	3号一括	須恵器	蓋	破片	(187)						ヨコナデ	ヨコナデ		黒色粒・若干砂礫	内外面淡灰色	良好		9上
11	1	3号-12	鉄鏃	柄	部分			46		6.6					4.5g		良好		9下
	2	3号-30一括	弥生土器(後期)	甕(胴部)	破片								ヨコナデ		砂礫	内外面灰褐色	良好	8号混入	9下
	3	3号-6	弥生土器(後期)	甕(胴部)	破片								ヨコナデ	ヨコナデ	砂礫	内外面赤褐色	良好	8号混入	9下
	4	3号一括	弥生土器(後期)	壷(胴部)	破片								上下帯縄文RL一部沈線区画		細粒砂	外面赤褐色・灰褐色	良好	8号混入	9下
	5	3号一括	弥生土器(後期)	甕(胴部)	破片								装飾輪積み痕・細竹管刺突		砂礫	表淡褐色・内淡褐色	良好	8号混入	9下
	6	3号一括	弥生土器(後期)	甕(底部)	破片		(65)					ヨコナデ黒斑付き	底部角摩滅		砂礫	表褐色・内灰褐色	良好	8号混入	9下
	7	3号-10	弥生土器(後期)	壷(底部)	破片		(83)					底内面剥落	底部角摩滅		砂礫	表褐色・内灰褐色	良好	8号混入	9下
	8	3号一括	軽石		破片												良好		9下
	9	7号-2	弥生土器(後期)	甕(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ・口唇部ヘラ刻み		砂礫	表褐色・内灰褐色	良好		9下
	10	7号-2	弥生土器(後期)	高坏(脚部)	破片							クシ整形部分	ヘラミガキ		砂礫	表灰褐色・内黒褐色	良好		9下

挿図番号	遺物番号	出土遺構	種別	器種・部位	遺存度	法量単位mm〔()は復元値〕						技法			胎土	色調	焼成	備考	図版番号
						口径	底径	器高	頸高	胴径	最大径	内面	外面	底外面					
11	11	7号-2	弥生土器(後期)	壷(胴部)	破片							ナデ赤彩	沈線区画縄文外赤彩		細粒砂	表灰褐色・内黄褐色	良好		9下
	12	7号-2	土師器	杯(胴部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ・底部近くヘラ削り		細粒砂・シャモット	表暗褐色・内灰褐色	良好		9下
	13	7号-2	土師器	杯(底部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂・シャモット	表淡灰褐色・内褐色	良好		9下
	14	21号一括	土師器	杯(口縁部)3点接合	破片	(143)	(53)	(36)				ヨコナデ煤付	ヨコナデ		細粒砂・シャモット	表灰褐色・内灰褐色	良好		9下
	15	21号-1一括	土師器	杯(口縁部)	小破片							ヨコナデ煤付	ヨコナデ		細粒砂	表褐色・内灰褐色	良好		9下
	16	21号-1一括	土師器	杯(口縁部)	小破片							ヨコナデ煤付	ヨコナデ		細粒砂・シャモット	表淡灰褐色・内褐色	良好		9下
	17	21号-1一括	土師器	杯(底部)	破片							ヨコナデ	ヘラケズリ		細粒砂・白色粒	表暗褐色・内灰褐色	良好		9下
	18	21号-1一括	土師器	甕(口縁部)	小破片				23			ヨコナデ	ヨコナデ煤付		細粒砂	表褐色・内灰褐色	良好		9下
	19	21号-1一括	弥生土器(後期)	壷(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画縄文外三角赤彩		細粒砂・白色粒	表黄褐色・内灰褐色	良好		9下
	20	21号-1一括	弥生土器(後期)	甕(口縁部)	破片							ヨコナデ	装飾輪積み痕・縄文原体刻み		砂礫	表褐色・内灰褐色	良好		9下
13	1	1号-1	須恵器	長頸壷(口縁部)	胴部下欠	111			127			ヨコナデ全面灰釉	ヨコナデ全面灰釉		黒色粒	内外面灰色・緑黒色釉	良好	裏施釉	7下10上
	2	1号-4	須恵器	杯(口縁部)	破片	(137)						ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	内外面暗灰色	良好		10上
	3	1号-7	須恵器	杯(底部)	破片		93					ヨコナデ	ヨコナデ	高台貼付後ヨコナデ	細粒砂	内外面暗灰色底部灰色	良好	2と同一?	10上
	4	1号-3	須恵器	杯(底部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ	摩滅	細粒砂	内外面白色	軟質		10上
	5	1号一括	弥生土器	壷(口唇部)	小破片							ヨコナデ赤彩	棒状RL縄文に円形添付状赤彩		赤色白色粒	内外面黄褐色	良好		10上
	6	1号一括	弥生土器	壷(胴部)	破片							ヨコヘラナデ	沈線区画羽状縄文区画外赤彩		赤色白色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10上
	7	1号一括	弥生土器	壷(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線結節区画縄文区画外赤彩		赤色白色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10上
	8	1号一括	弥生土器	壷(頸部)	破片							ヨコナデ	羽状縄文		赤色白色粒砂礫	外黄褐色・内灰褐色	良好		10上
	9	1号一括	弥生土器	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇上ヘラ刻み装飾輪積み		砂礫	内外面赤褐色	良好		10上
	10	1号一括	弥生土器	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇上ヘラ刻み		砂礫・白色粒	外面黄褐色・暗褐色	良好		10上
	11	1号一括	弥生土器	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	口唇上ヘラ刻み		砂礫	外面淡褐色・明褐色	良好		10上
	12	1号一括	弥生土器	甕(口唇欠口縁部)	小破片							ヨコナデ	口縁部と胴部境界にヘラ刻み		砂礫	外面淡褐色・暗褐色	良好		10上
	13	1号一括	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	線の細かい密なハケ整形		細粒砂・白色粒	外黒色・内灰褐色	良好		10上
	14	1号-6	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	線の細かい密なハケ整形		細粒砂	外黒色褐色・内褐色	良好		10上
	15	1号一括	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	線の細かい密なハケ整形		細粒砂	外黒色・灰褐色	良好		10上
	16	1号一括	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	線の細かい密なハケ整形		細粒砂	外暗褐色色・黒色	良好		10上
	17	1号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							剥落	結節羽状縄文		細粒砂	内外面明褐色	良好		10上
	18	1号一括	弥生土器	甕(底部)	破片		(82)					ヨコナデ	ヘラ整形		砂礫	外灰褐色・内暗褐色	良好		10上
	19	1号-2	土玉	一部調査時ガジリ	完形	6.5		42			38.8	各棒状工具突通し	ナデ整形		白色粒56.7g	灰褐色	良好		10上
14	1	4号一括	須恵器	蓋	小破片	169						ヨコナデ	全面灰釉		白色粒・細粒砂	外灰釉・内灰色	良好		10下
	2	4号一括	土師器	甕(口縁部)	小破片	174						ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	外赤褐色・内褐色	良好		10下
	3	4号一括	土師器	杯(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	外褐色・内褐色	良好		10下
	4	4号一括	土師器	甕(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	外赤褐色・内褐色	良好		10下
	5	4号一括	土師器	甕(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	外暗褐色・内灰褐色	良好		10下
	6	4号一括	土師器	甕(底部)	破片		(68)						ヘラケズリ		細粒砂	外暗褐色・内赤褐色	良好		10下
	7	4号-7	弥生土器	壷(胴部)	破片							剥落	沈線区画内網目状撚糸文外赤彩		赤色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10下
	8	4号一括	弥生土器	壷(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		赤色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10下
	9	4号一括	弥生土器	壷(胴部)	破片							ヨコナデ	縄文結節区画内縄文外赤彩		赤色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10下
	10	4号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							ヨコナデ	羽状縄文		細粒砂	内外面明褐色	良好		10下
	11	4号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							剥落	羽状縄文		細粒砂・赤色粒	外面灰褐色	良好		10下
	12	4号一括	弥生土器	壷(頸部)	小破片							ヨコナデ	縄文LR		細粒砂	内外面褐色	良好		10下
	13	4号一括	弥生土器	壷(頸部)	小破片							ヨコナデ	沈線区画縄文RL外赤彩		細粒砂・白色粒	内外面明褐色	良好		10下
	14	4号一括	弥生土器	壷(頸部)	小破片							ヨコナデ	沈線区画縄文LR		細粒砂	外暗褐色・内灰褐色	良好		10下
	15	4号一括	弥生土器	鉢(口縁部)	破片							ヨコナデ	口唇部角棒状折返部縄文原体刻		砂礫	外褐色・内灰褐色	良好		10下
	16	4号一括	弥生土器	甕(口縁部口唇欠)	小破片							ヨコナデ	頸部胴部境界縄文原体刻		砂礫	外黒褐色・内褐色	良好		10下
	17	4号一括	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ヨコナデ	ハケ目・口縁部貼付剥落		細粒砂	外褐色・内明褐色	良好		10下
	18	4号一括	弥生土器	甕(胴部)	小破片							ハケ目	ハケ目		細粒砂	外褐色・内明褐色	良好		10下
	19	4号一括	弥生土器	壷(頸部)	小破片							剥落	沈線区画縄文RL		砂礫	外黄褐色・内明褐色	良好		10下
	20	4号一括	弥生土器	壷(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画縄文LR外赤彩		赤色粒	外黄褐色・内灰褐色	良好		10下
	21	2号一括	土師器	杯(胴部)	小破片						(121)	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ		赤色粒	内外面黄褐色・外赤彩?	良好		10下
	22	2号一括	弥生土器?	椀?(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ・縦位刻み		細粒砂	外灰褐色・内暗褐色	良好		10下
	23	2号一括	弥生土器	鉢?(底部)	破片		(74)					ヘラナデ	タテナデ	ナデ	砂礫	外褐色・内黒色	良好		10下
	24	2号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							摩滅	羽状縄文		砂礫	内外面明褐色	軟質		10下
	25	2号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							摩滅	羽状縄文		白色粒・細粒砂	外面明褐色・内灰褐色	軟質		10下
	26	2号一括	弥生土器	壷(胴部)	小破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文		赤色粒	外灰褐色・褐色	良好		10下
	27	2号一括	弥生土器	壷(底部)	破片							指頭整形	ヘラナデ	ナデ木葉痕	砂礫・白色粒	外褐色・内黒灰色	良好		10下
	28	2号一括	弥生土器	甕転用コシキ(底部)	破片		(74)					指頭整形	ヨコナデ	十字状穿孔	砂礫	外灰褐色・内黒灰色	良好		10下
	29	2号一括	弥生土器	甕(底部)	破片		(69)					ヨコナデ	ヘラナデ	ナデ	砂礫	外褐色・内灰褐色色	良好		10下
	30	2号一括	土師器	大型杯(台部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	外赤褐色・内褐色	良好		10下
	31	2号一括	土製品	板状(大型土器片?)	小破片							ヨコナデ			砂礫	外赤褐色・内褐色	良好		10下
	32	2号一括	土製品	支脚に似る叩潰痕面	破片							摩滅		摩滅と剥離	シャモット・砂	内外面明褐色	砂質脆い		10下
	33	2号一括	土製品	支脚に似る平面あり	破片							剥落	ナデ整形		シャモット・砂	内外面明褐色	脆い		10下

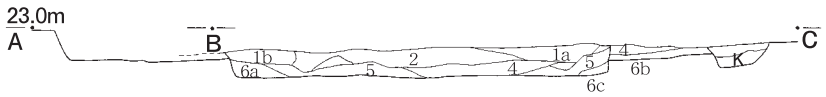
挿図番号	遺物番号	出土遺構	種別	器種・部位	遺存度	法量単位mm〔()は復元値〕						技法			胎土	色調	焼成	備考	図版番号
						口径	底径	器高	頸高	胴径	最大径	内面	外面	底外面					
14	34	13号一括	弥生土器	甕(口縁部)	破片							ヘラナデ	ヨコナデ		白色粒・細粒砂	外赤褐色・内灰褐色	良好		10下
	35	18号一括	弥生土器	高坏(脚部)	破片							ヨコナデ	縦位ヘラナデ		細粒砂	内外面明褐色	良好		10下
15	1	6号一括	須恵器	蓋(口縁部)	破片	(167)						ヨコナデ	ヨコナデ・全面灰釉		黒色粒	内外面灰色	良好		11上
	2	6号一括	須恵器	蓋(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		胎土白色	内外面黒灰色	軟質		11上
	3	6号-24	須恵器	杯(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ		黒色粒	内外面灰色	良好		11上
	4	6号一括	須恵器	壺(口唇部)	小破片	(114)									細粒白色粒	内外面灰釉緑灰色	良好		11上
	5	6号一括	土師器	杯(口縁部)	小破片	(113)						ヨコナデ	ヨコナデ・黒色処理		白色粒	外灰褐色・内黒色	良好		11上
	6	6号-10	須恵器	杯(底部から胴部)	破片	(110)						ヨコナデ	ヨコナデ・底面ヒダスキ		黒色粒	内外面暗灰色	良好		11上
	7	6号一括	須恵器	壺(底部)	破片		(150)					ヨコナデ	ヨコナデ・一部灰釉付着	高台貼付後ヨコナデ	黒色粒	内外面灰色	良好		11上
	8	6号-16	土師器	杯(底高台部)	破片		(60)					ヨコナデ	ヨコナデ	高台貼付後ヨコナデ	白色粒	内外面赤褐色	良好		11上
	9	6号-20	弥生土器	壺(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ・口唇以下赤彩		細粒砂礫	内外面褐色	良好		11上
	10	6号-18	弥生土器	壺(口縁部)	小破片							ヨコナデ	ヨコナデ・内外面赤彩		細粒砂礫	内外面淡黄褐色	良好		11上
	11	6号-20	弥生土器	壺(口縁部)	小破片							ヨコナデ赤彩	ヨコナデ・折り返し口唇以下赤彩		細粒砂礫	内外面灰褐色	良好		11上
	12	6号-4	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	羽縄文上添付文		赤色粒	内外面灰褐色	良好		11上
	13	6号一括	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文		細粒砂礫	内外面淡黄褐色	良好		11上
	14	6号-13	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文		砂礫	内外面淡黄褐色	良好		11上
	15	6号-6	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	結節区画内羽状縄文外赤彩		赤色粒	外淡黄褐色・内灰褐色	良好		11上
	16	6号-21	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	羽状縄文		細粒砂	外淡黄褐色・内灰褐色	良好		11上
	17	6号-8	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		砂礫・赤色粒	内外面灰褐色	良好		11上
	18	6号-24	弥生土器	壺(頸部)	破片							ヨコナデ	平行沈線区画内縄文		細粒砂礫	外褐色・内灰褐色	良好		11上
	19	6号一括	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	平行沈線区画内縄文		細粒・白色粒	外褐色・内灰褐色	良好		11上
	20	6号一括	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	縄文RL外赤彩		細粒・白色粒	外褐色・内灰褐色	良好		11上
	21	6号一括	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	縄文LR外赤彩		細粒・白色粒	外褐色・内灰褐色	良好		11上
	22	6号一括	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		砂礫	内外面明褐色	良好		11上
	23	6号一括	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	結節区画内縄文外赤彩		細粒・白色粒	外褐色・内灰褐色	良好		11上
	24	6号-19	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		砂礫・赤色粒	内外面灰褐色	良好		11上
	25	6号-14	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		砂礫・赤色粒	内外面灰褐色	良好		11上
	26	6号-26	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		赤色粒	内外面明褐色	良好		11上
	27	6号-7	弥生土器	壺(胴部)	破片							ヨコナデ	沈線区画内縄文外赤彩		赤色粒・白色粒	外明褐色内灰褐色	良好		11上
	28	6号-27	弥生土器	高坏・浅鉢?(胴部)	破片							ヨコナデ・赤彩	沈線区画内縄文外赤彩		砂礫・白色粒	外明褐色内灰褐色	良好		11上
	29	6号一括	弥生土器	甕(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ口縁胴境界縄文原体刻み		砂礫	外褐色内明褐色	良好		11上
	30	6号-5-8	土製品	支脚(基部)	破片							ナデ	ナデ整形		砂質白色粒	外灰褐色内赤褐色	脆い		11上
	31	6号一括	鉄製品	鉄鏃部分?	破片										7.2g		良好		11上
17	1	9号-2	弥生土器	壺(口唇部)	小破片								ヨコナデ赤彩	口唇端部以下胴部外	白色粒	内外面明灰褐色	良好		11下
	2	9号-1	弥生土器	甕(口唇部)	破片							ヨコナデ頸部ハケ	口唇部ヘラ刻み縦位ハケ整形		白色粒	外黒色・内灰褐色	良好		11下
	3	9号-1	弥生土器	甕(口唇部)	破片							ヨコナデ	口唇部ヘラ刻み縦位ヘラナデ整形		白色粒	外暗褐色内褐色黒色	良好		11下
	4	10号-1	土師器	甕?(口縁部)	小破片	(190)						ヨコナデ	ヨコナデ		シャモット	内外面褐色	良好		11下
	5	10号-6	土師器	甕(口縁部)	破片	(245)						ヨコナデ	ヨコナデ		シャモット	内外面灰褐色	良好		11下
	6	11号-7	弥生土器	甕(口縁部胴部)	破片							ヨコナデ	ヨコヘラナデ		砂礫・白色粒	外黒褐色内灰褐色	良好		11下
	7	11号-7	弥生土器	甕(頸部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ・装飾輪積み		砂礫	外灰褐色内赤褐色	良好		11下
	8	11号-7	弥生土器	甕(頸部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ・装飾輪積み		砂礫・白色粒	外黒褐色内灰褐色	良好		11下
	9	11号-6	須恵器	壺(胴部)	小破片							ヨコナデ	灰釉全面		黒色粒	外深緑色内灰色	良好		11下
	10	12号-1	須恵器	蓋(口縁部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		胎土白色	外黒灰色内黒色	良好		11下
	11	14号-1	土師器	杯(口縁部)	破片							ヨコナデ黒色処理	ヨコナデ		若干の砂礫	外黒褐色内黒	良好		11下
	12	17号-1	土師器	甕(頸部胴部)	破片							ヨコナデ	ヨコナデ下ヘラケズリ		白色粒	外褐色・内灰褐色	良好		11下
	13	表面採集	ロクロ土師器	杯(底部)	破片		(63)					ナデ	ナデ整形	底糸切り後ヘラナデ	白色粒	外褐色・内暗灰褐色	良好		11下
	14	表面採集	須恵器	甕(胴部)	破片							ナデ	タタキメ整形		黒色粒	内外面灰色	良好		11下
	15	表面採集	須恵器	甕(胴部)	破片							ナデ	タタキメ整形		黒色粒	内外面灰色	良好		11下
	16	表面採集	陶器	壺(?胴部)火消し壺	破片							ヨコナデ	ヨコナデ		細粒砂	内外面明褐色	良好		11下
	17	表面採集	土師器	高坏(脚部)	破片							ヘラ整形	ナデ整形		細粒砂	内外面褐色	良好		11下
	18	表面採集	布目瓦	平瓦	破片							布目	粗い縄目		細粒砂白色粒	内赤褐色外は灰褐色	良好		11下
	19	表面採集	布目瓦	丸瓦	破片							布目	ヘラケズリ		細粒砂白色粒	内赤褐色外は灰褐色	良好		11下
	20	表面採集	布目瓦	平瓦	破片							布目	粗い縄目		細粒砂白色粒	内赤褐色外は灰褐色	良好		11下
	21	表面採集	陶器	炬燵?	破片							ナデ整形	一面方形規則目・一面平滑		シャモット砂礫	内外面灰色	良好		11下
	22	表面採集	陶器	炬燵?	破片							ナデ整形	一面方形規則目		シャモット砂礫	内外面灰色	良好		11下
	23	表面採集	陶器	炬燵?	破片							ナデ整形	一面方形規則目		シャモット砂礫	内外面灰色	良好		11下

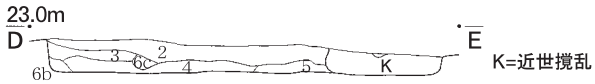


第７図　縄文時代出土遺物

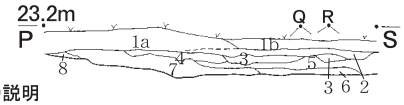


縄文土器概略図(縮尺不定参考)





K=近世撹乱

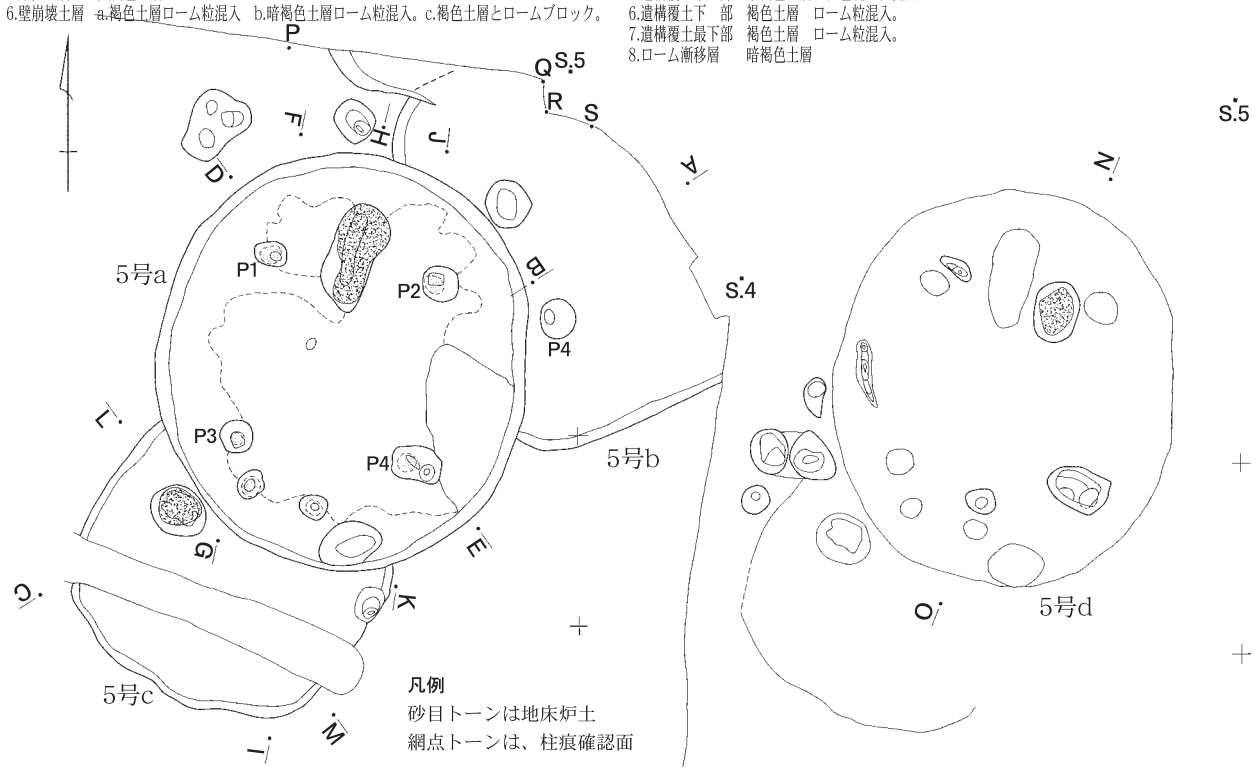


A～B～C・D～E土層説明

1.覆土最上部　a.暗褐色土層　ローム粒、橙色粒が混入。b.淡褐色土層　橙色焼土状粒スコリア混入。
2.覆土上部層　淡褐色土層　ローム分、ローム粒が多く、橙色の焼土状のスコリアを若干含む。
3.覆土中部層　淡褐色土層　小ロームブロック、ローム粒が多く混入。
4.覆土下部層　暗褐色土層　ロームブロックと若干の木炭粒を含む。
5.床直土層　黒褐色土層
6.壁崩壊土層　a.褐色土層ローム粒混入　b.暗褐色土層ローム粒混入。c.褐色土層とロームブロック。

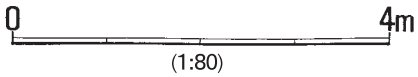
P～S土層説明

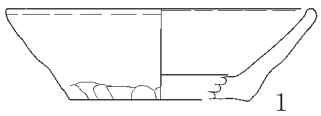
1.表　　土　a.暗褐色土層　b.暗褐色土層。
2.遺構覆土最上部　暗褐色土層　橙色焼土粒混入。
3.遺構覆土上　部　黒褐色土層　ローム粒が混入し、橙色焼土粒が多い。
4.　〃　　暗褐色土層　ローム粒混入。
5.遺構覆土中　部　暗褐色土層　橙色焼土粒混入。
6.遺構覆土下　部　褐色土層　ローム粒混入。
7.遺構覆土最下部　褐色土層　ローム粒混入。
8.ローム漸移層　暗褐色土層

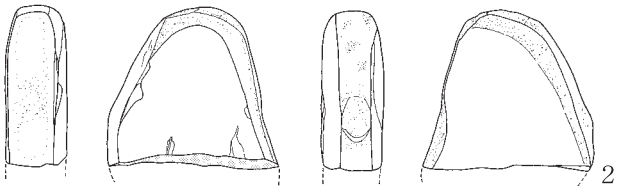


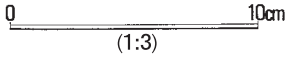
凡例
砂目トーンは地床炉土
網点トーンは、柱痕確認面

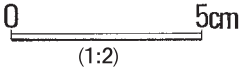
F～Kエレベーション説明
断面２層分離部分は上部ロームブロック等の貼床部分
砂目トーンは地床炉部分



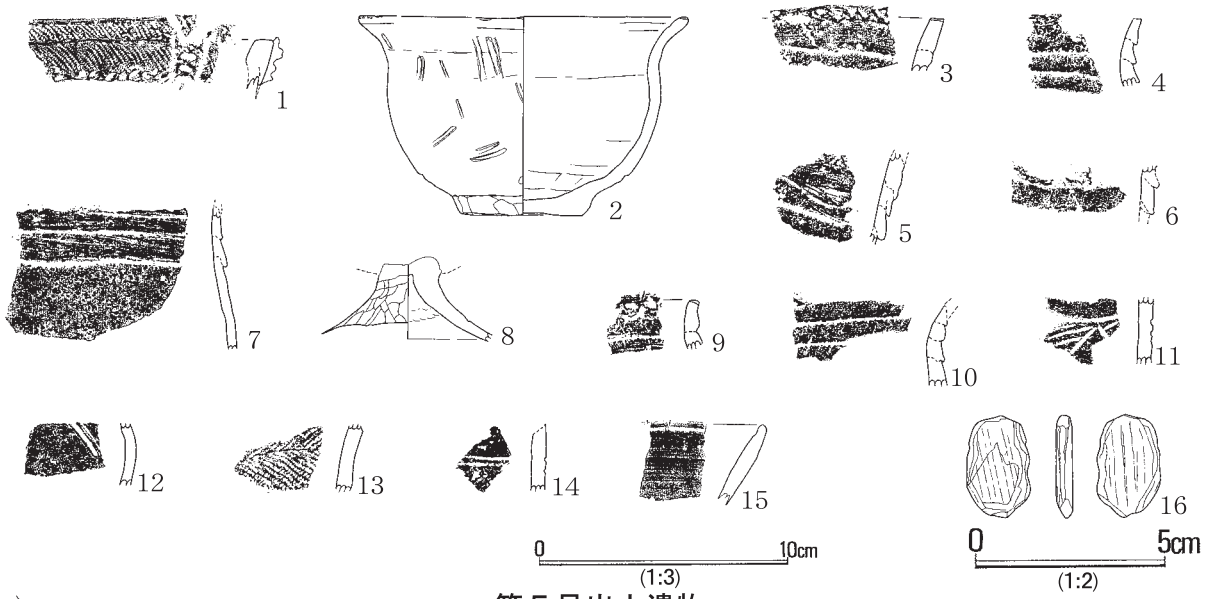




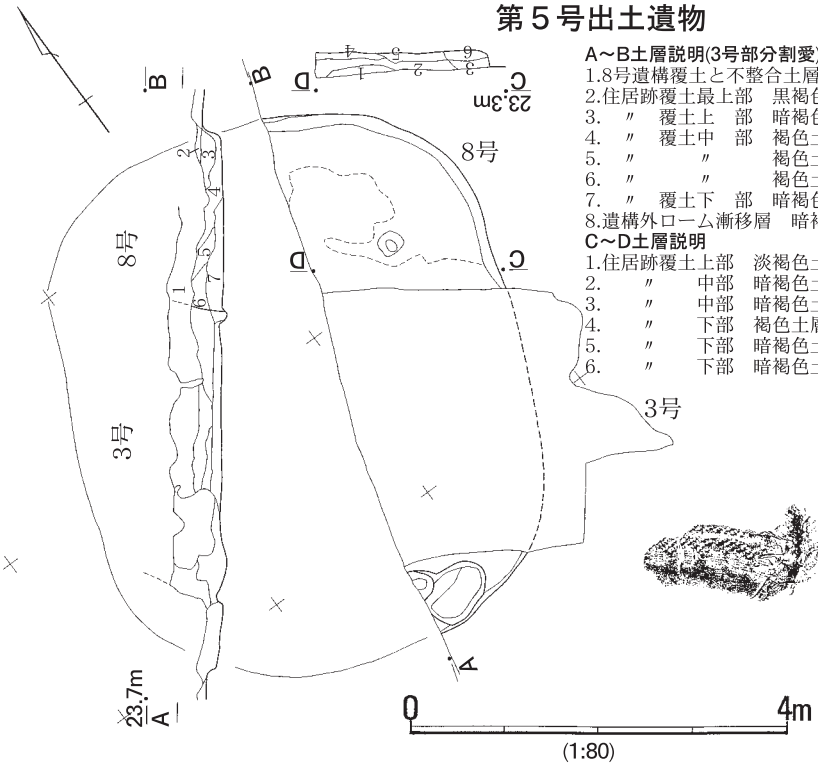




第８図　第５号遺構図・出土遺物



第５号出土遺物

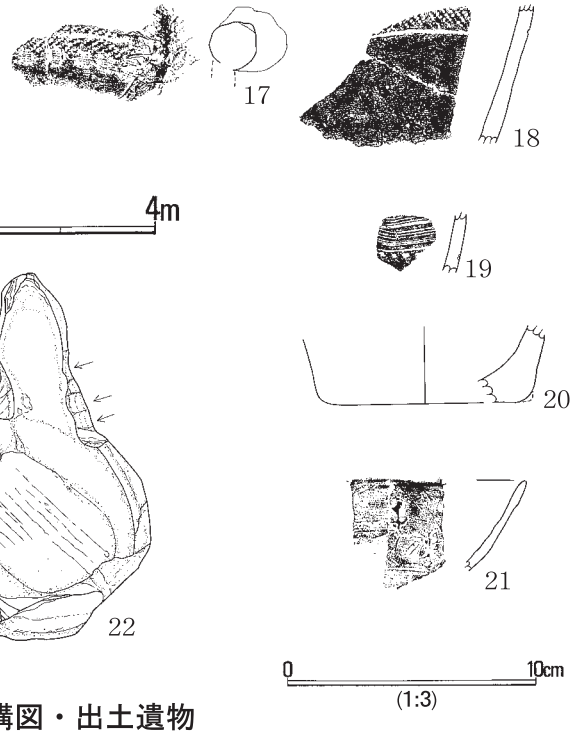


A～B土層説明(3号部分割愛)

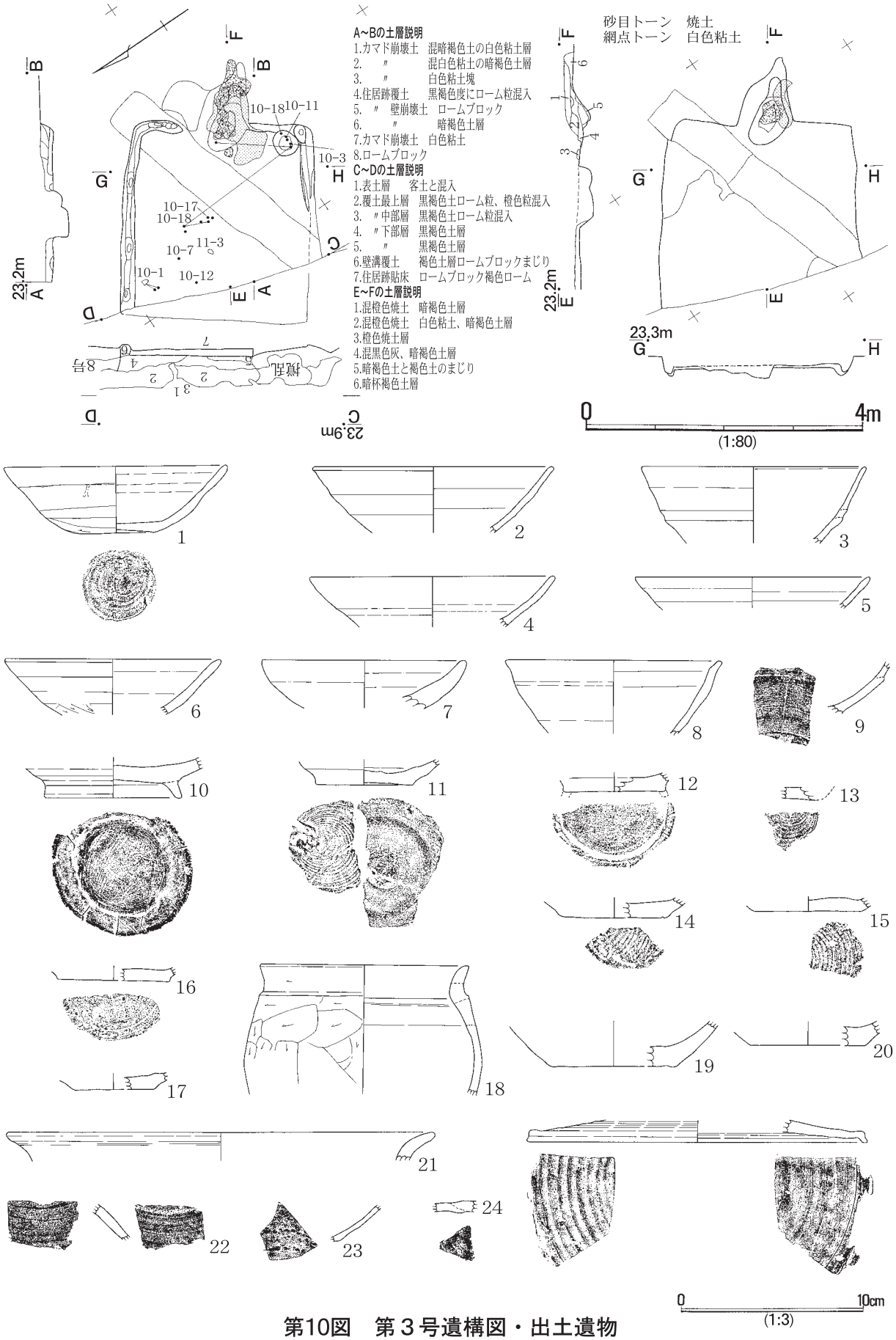
1.8号遺構覆土と不整合土層(古代?)黒褐色土層　ローム粒と橙色粒を含む。
2.住居跡覆土最上部　黒褐色土層
3.　〃　覆土上　部　暗褐色土層
4.　〃　覆土中　部　褐色土層
5.　〃　　〃　　褐色土層に小ロームブロックが多く混入。
6.　〃　　〃　　褐色土層に大小ロームブロックが多く混入。
7.　〃　覆土下　部　暗褐色土層
8.遺構外ローム漸移層　暗褐色土層

C～D土層説明

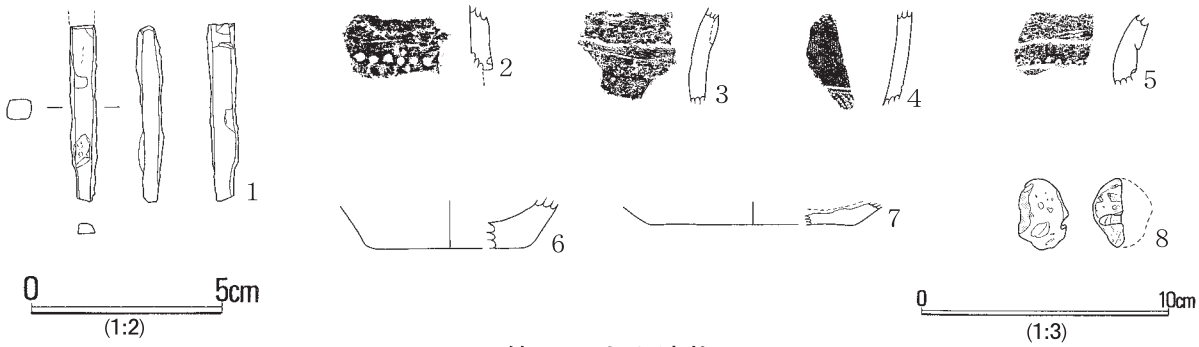
1.住居跡覆土上部　淡褐色土層
2.　〃　　中部　暗褐色土層　若干のロームブロックを混入する。
3.　〃　　中部　暗褐色土層　ローム粒混入。
4.　〃　　下部　褐色土層　　ローム粒、ローム分が多く混入。
5.　〃　　下部　暗褐色土層
6.　〃　　下部　暗褐色土層　ローム粒が混入する。



第９図　第８号遺構図・出土遺物



第10図　第３号遺構図・出土遺物

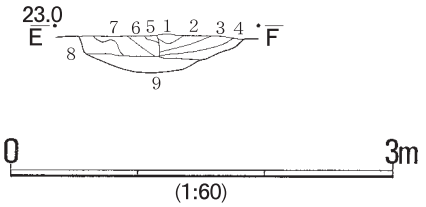


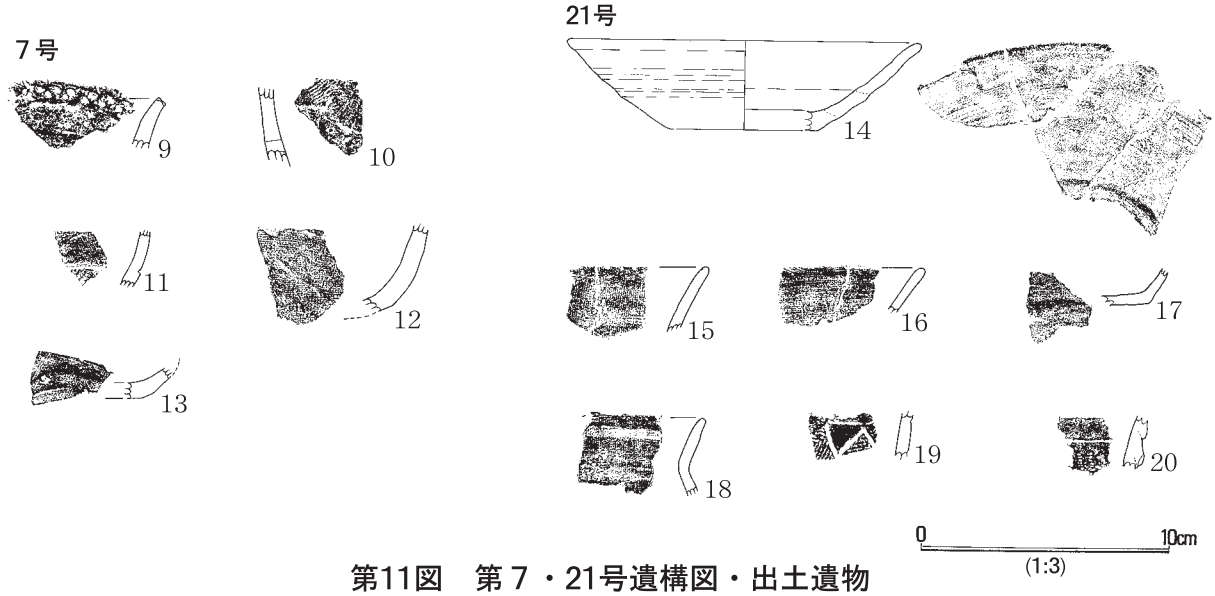
第３号出土遺物

※淡い網点トーンは、ローム・ロームブロックの充填
濃い網点トーンは、木棺痕平面位置

7号　A～B・C～Dの土層説明
1.覆土上部　a.黒褐色土、ローム小ブロック、ローム粒混入　b.暗褐色土層　ローム粒が多い。
2.覆土中部　a.暗褐色土層　ローム粒が多い　b.褐色土層　ローム粒が多い　c.ロームブロック
3.覆土下部　暗褐色土層　ロームブロック、ローム粒が多い
4.棺底直土層　混ローム粒　黒褐色土層
5.棺裏込め土　a.褐色土層　ローム分が多い　b.褐色ロームブロック

21号　E～Fの土層説明
1.黒褐色土　2.ロームブロック焼土性まじりの黒褐色土　3.黒褐色土　4.ローム粒まじりの黒褐色土
5.混橙色焼土粒、灰褐色土　6.混ローム粒、灰褐色土層　7.混ローム粒褐色土層
8.9はやや掘り過ぎローム地山





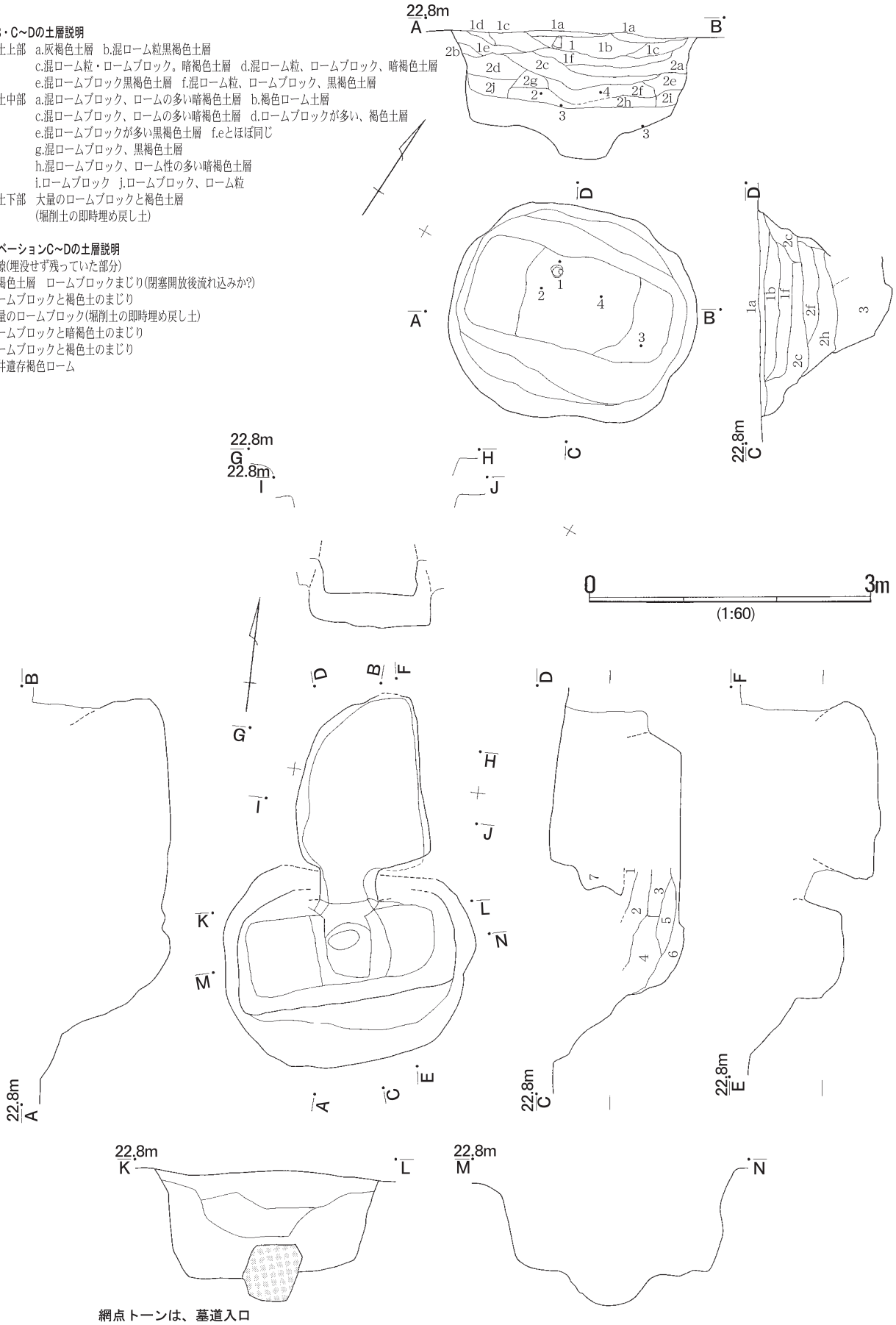
第11図　第７・21号遺構図・出土遺物

A~B・C~Dの土層説明

1.覆土上部　a.灰褐色土層　b.混ローム粒黒褐色土層
　　c.混ローム粒・ロームブロック。暗褐色土層　d.混ローム粒、ロームブロック、暗褐色土層
　　e.混ロームブロック黒褐色土層　f.混ローム粒、ロームブロック、黒褐色土層
2.覆土中部　a.混ロームブロック、ロームの多い暗褐色土層　b.褐色ローム土層
　　c.混ロームブロック、ロームの多い暗褐色土層　d.ロームブロックが多い、褐色土層
　　e.混ロームブロックが多い黒褐色土層　f.eとほぼ同じ
　　g.混ロームブロック、黒褐色土層
　　h.混ロームブロック、ローム性の多い暗褐色土層
　　i.ロームブロック　j.ロームブロック、ローム粒
3.覆土下部　大量のロームブロックと褐色土層
　　(堀削土の即時埋め戻し土)

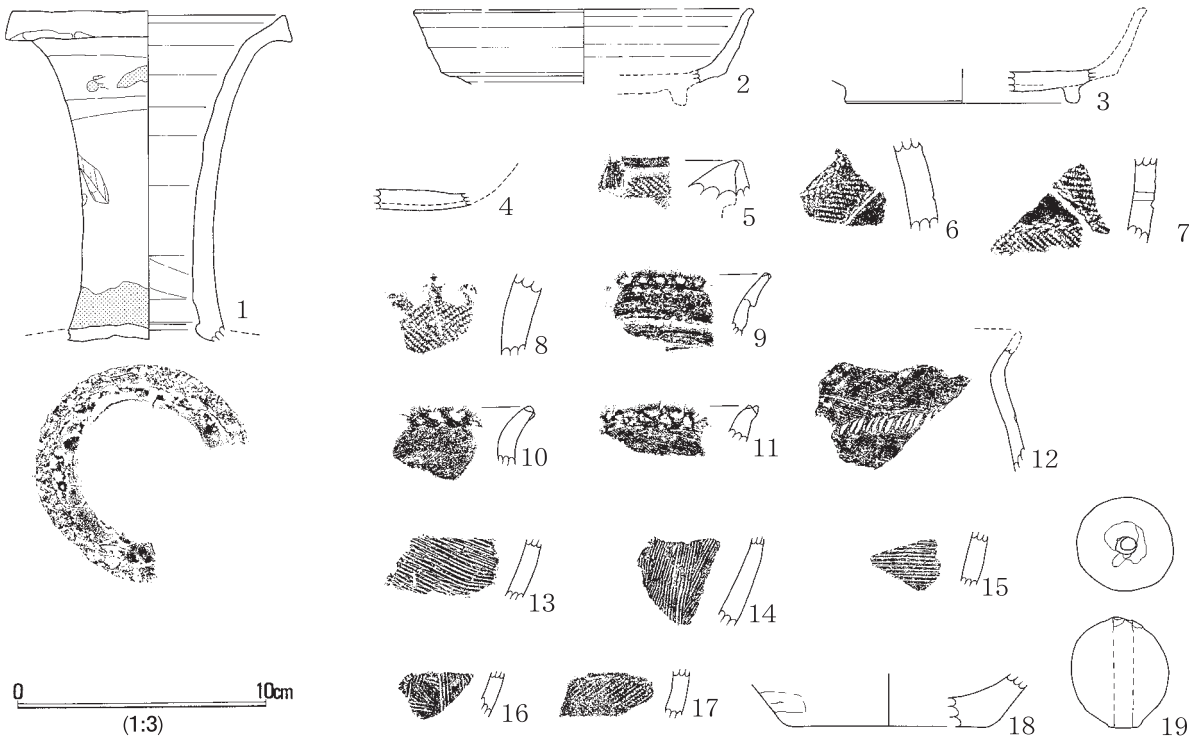
エレベーションC~Dの土層説明

1.空隙(埋没せず残っていた部分)
2.黒褐色土層　ロームブロックまじり(閉塞開放後流れ込みか?)
3.ロームブロックと褐色土のまじり
4.大量のロームブロック(堀削土の即時埋め戻し土)
5.ロームブロックと暗褐色土のまじり
6.ロームブロックと褐色土のまじり
7.天井遺存褐色ローム

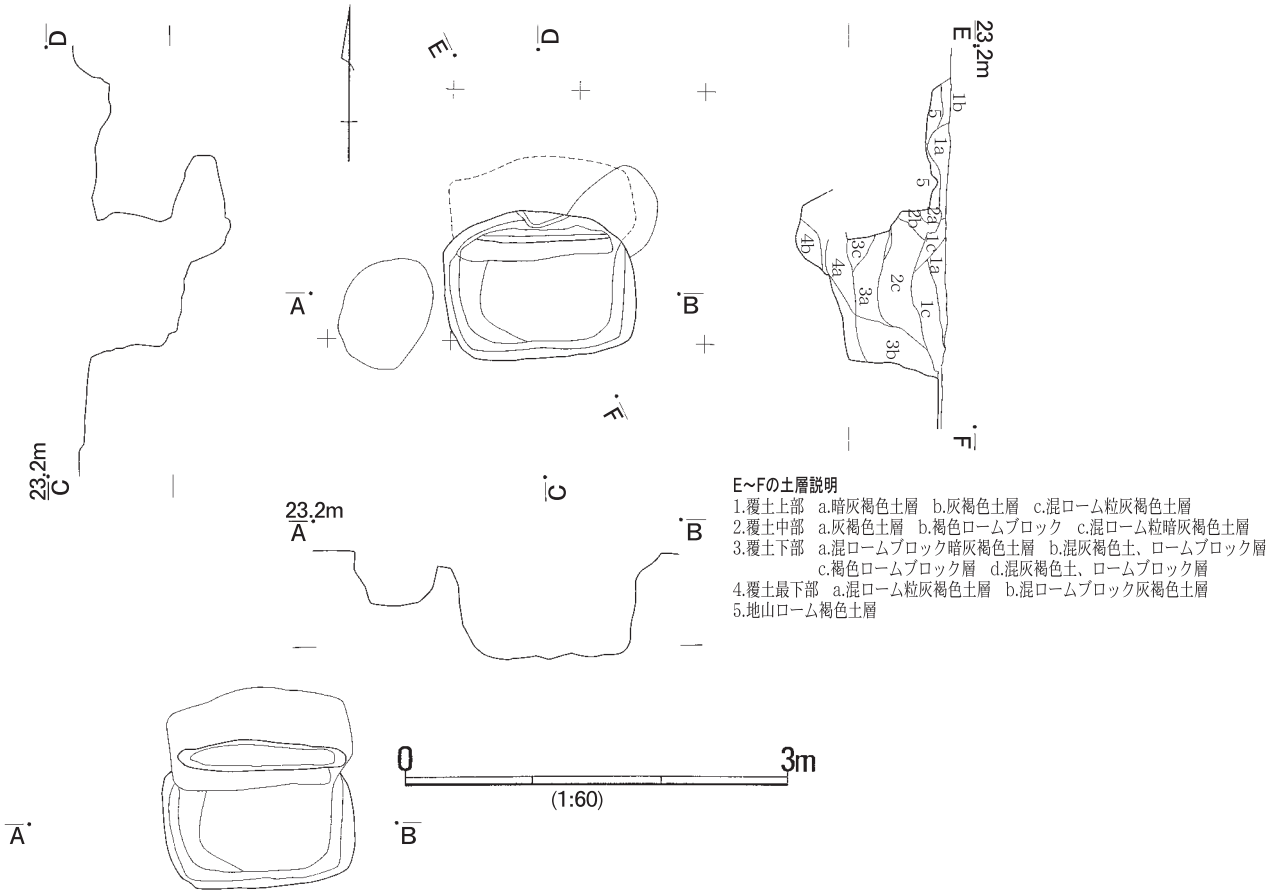


網点トーンは、墓道入口

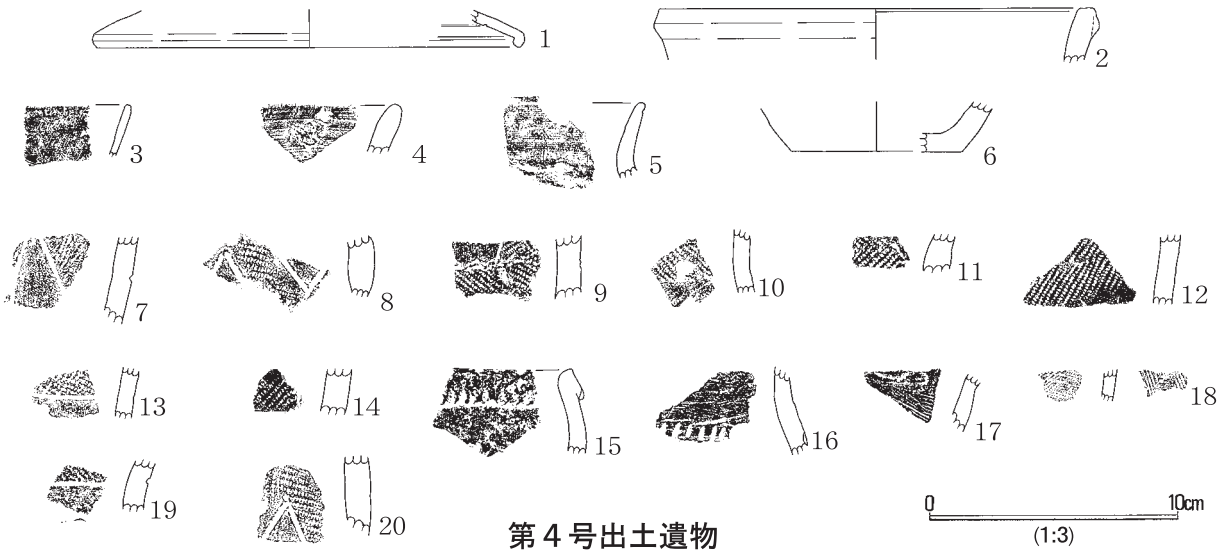
第12号　第１号遺構図



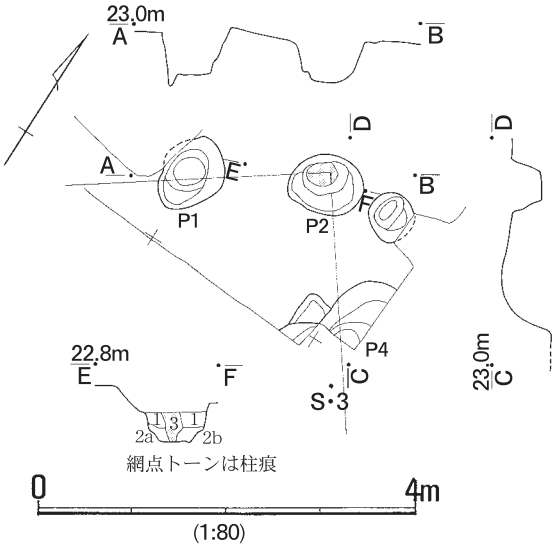
第１号出土遺物

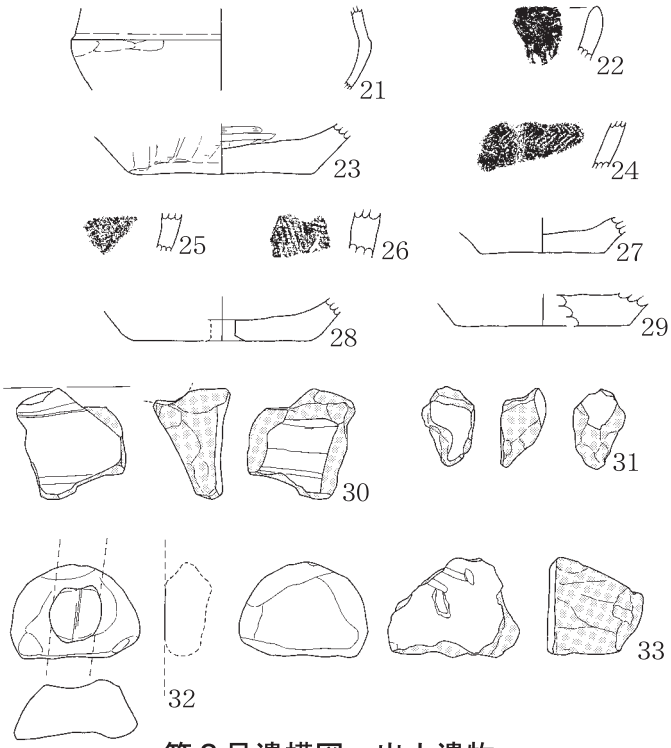


第13図　第４号遺構図

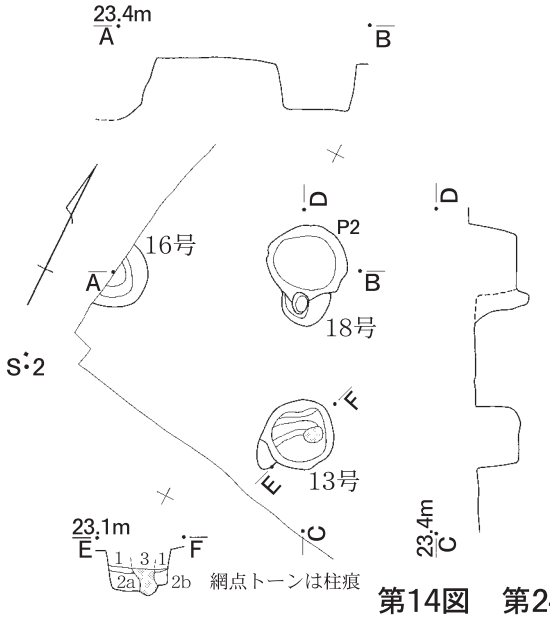


第４号出土遺物





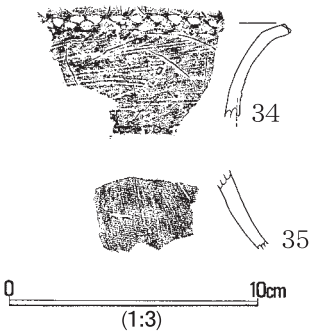
第２号遺構図・出土遺物



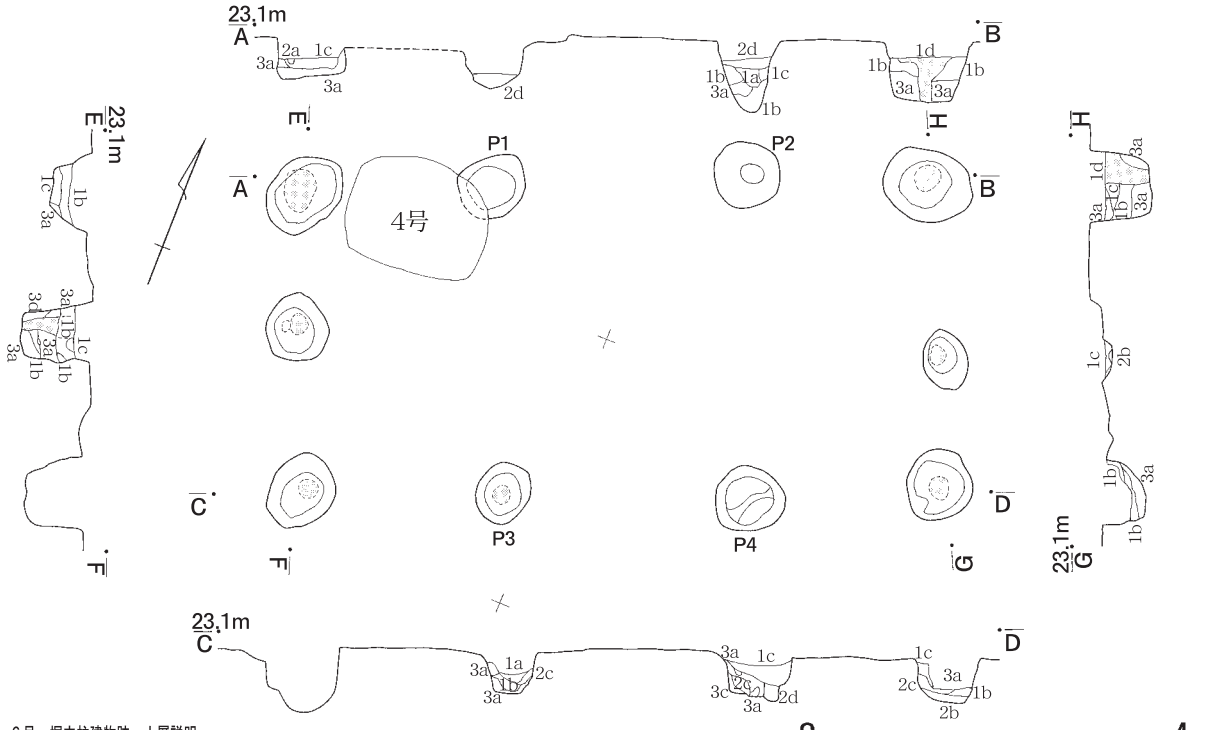
2号　E～F土層説明
1.灰褐色土層
2.a.混ロームブロック暗褐色土層
　b.混ローム粒灰褐色土層
3.柱痕　混ロームブロック黒褐色土層

13号(24号堀立柱建物跡)E～F土層説明
1.黒褐色土層
2.a.混ロームブロック褐色土層
　b.混ロームブロック褐色土層
3.柱跡　混ローム粒黒褐色土層

※13号・16号・18号は一連の堀立柱建物跡の為
　総称として24号遺構としている。



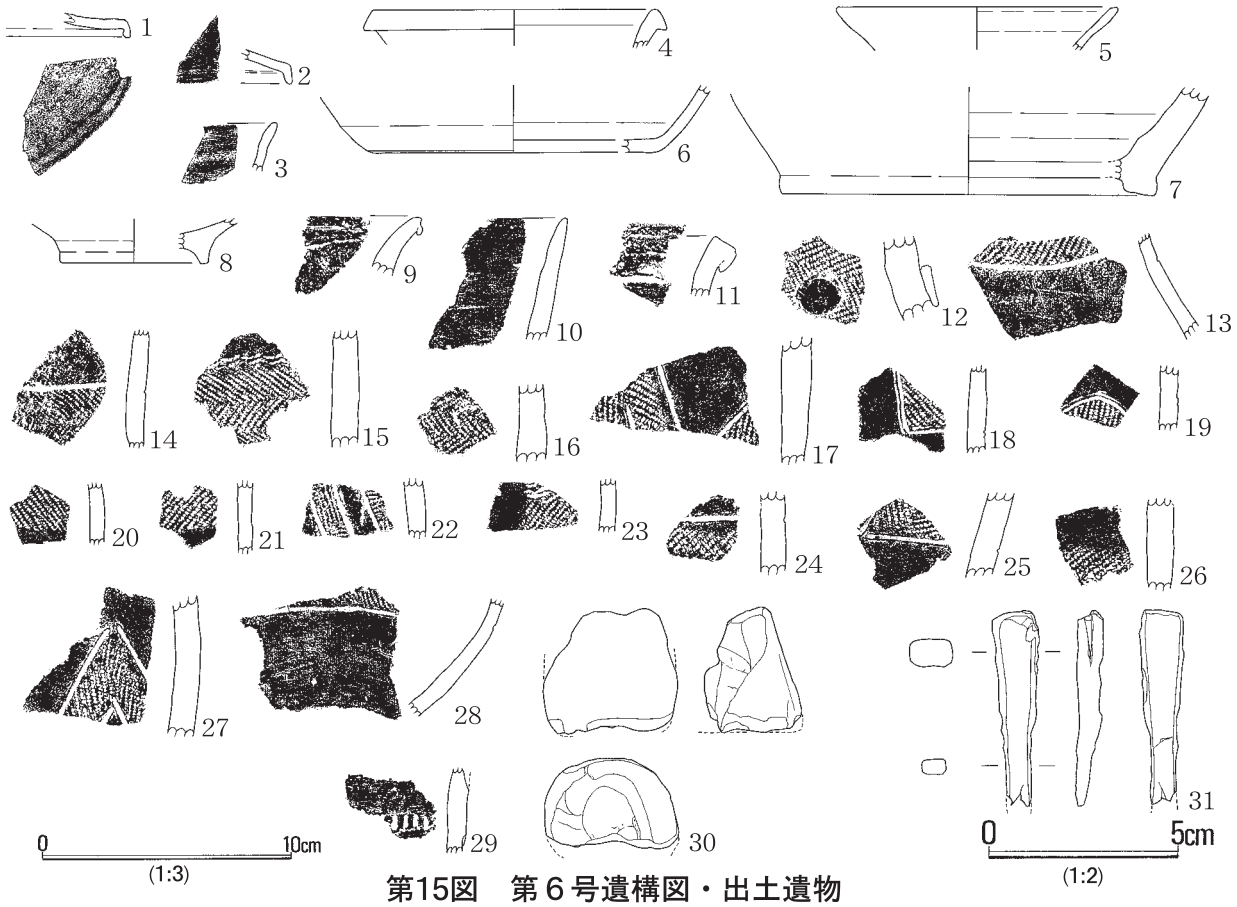
第14図　第24号遺構図・出土遺物



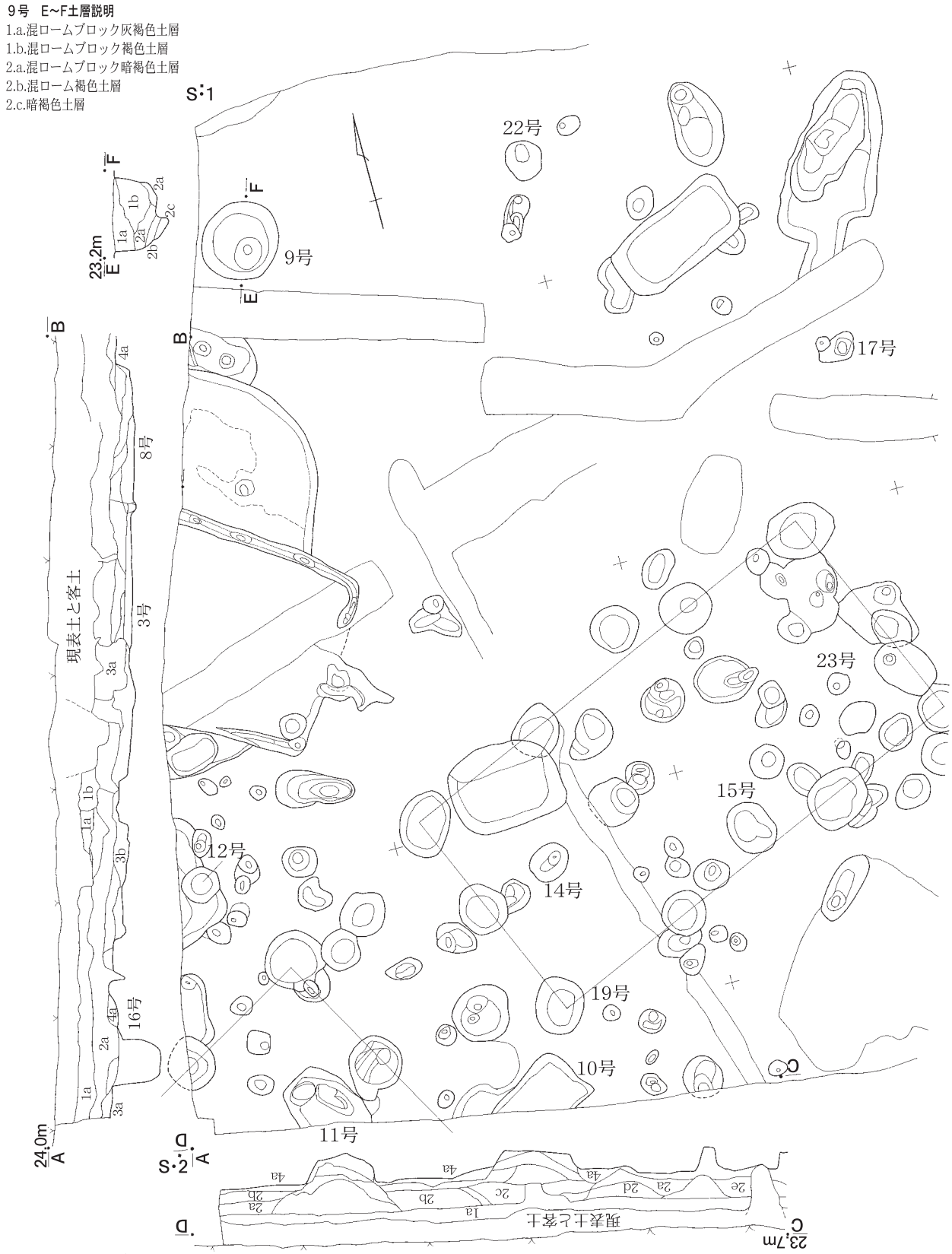
6号　堀立柱建物跡　土層説明

1.a.黒色土層　b.混ロームブロック黒色土層　c.混褐色ローム、黒色土層　d.混ロームブロック褐色ローム、黒色土層
2.a.褐色ローム土層　b.混ロームブロック褐色ローム層　c.混黒色土褐色ローム層　d.混黒色土、ロームブロック褐色ローム層
3.a.ロームブロック層　b.混褐色ローム、ロームブロック層　c.混ローム粒とロームブロック層　d.混黒色土、ロームブロック層

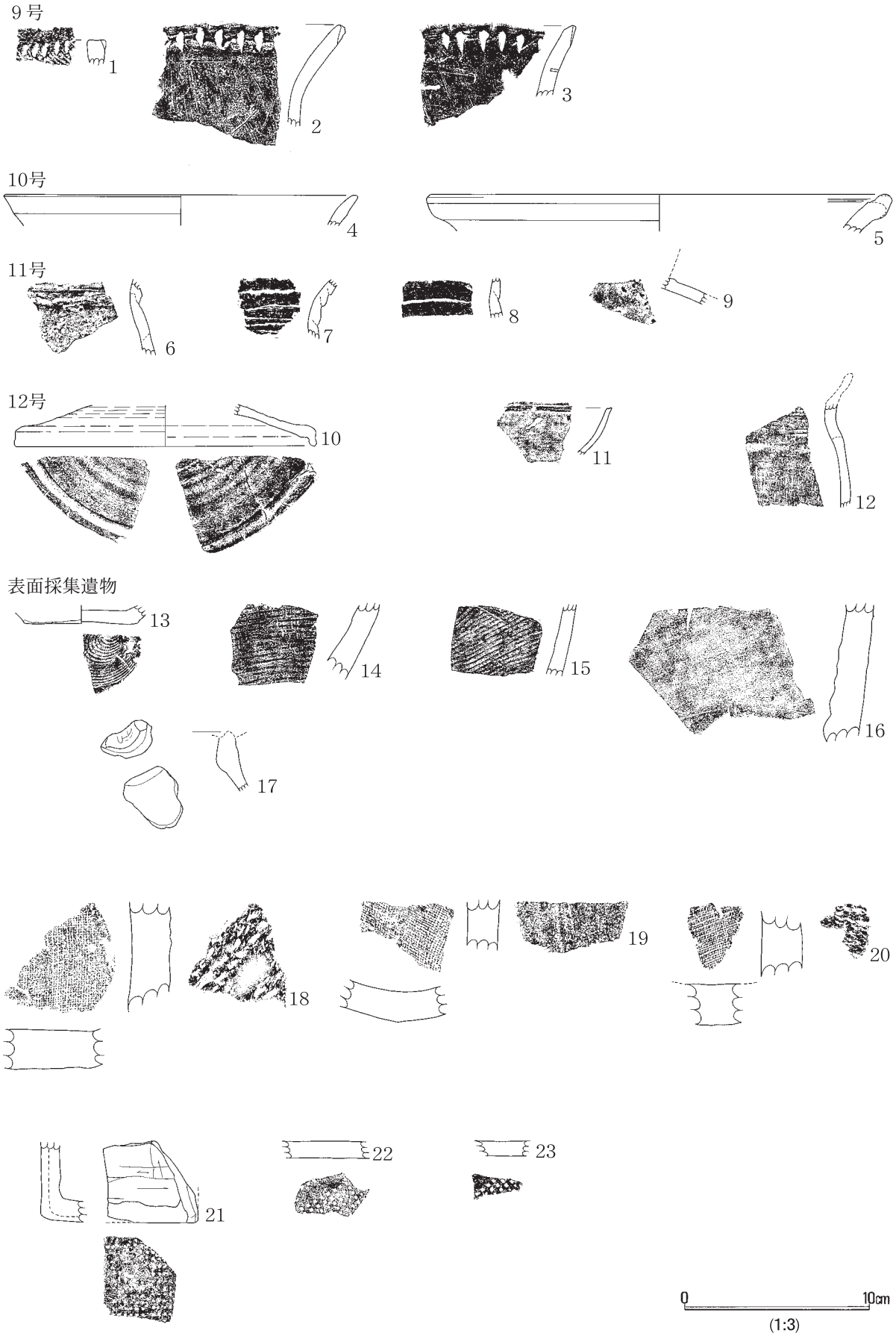
網点トーンは柱痕



第15図　第６号遺構図・出土遺物



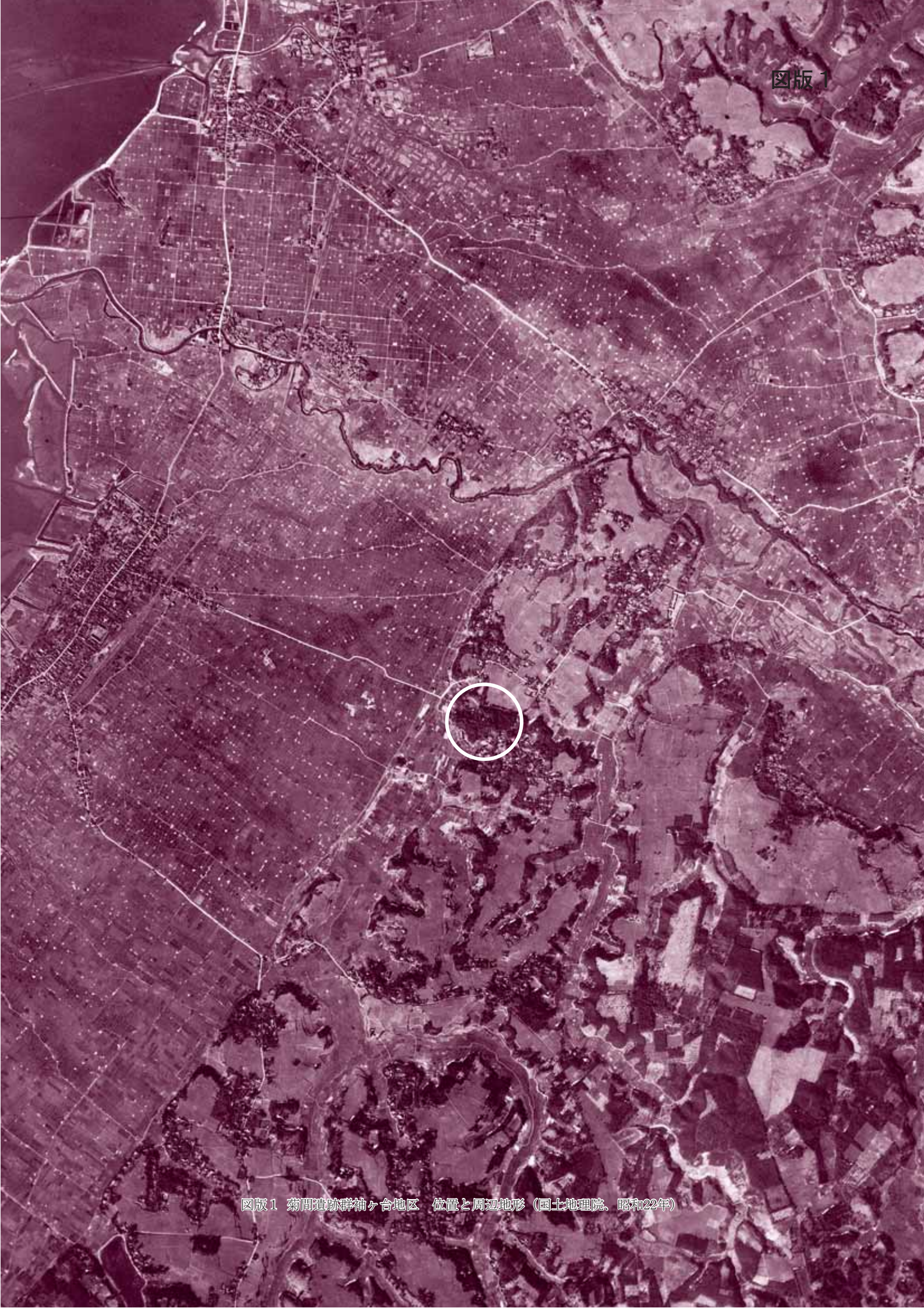
第16図　第９・10・11・12・14・15・17・19・22・23号遺構図



第17図　第９・10・11・12・14・17号出土遺物及び表面採集遺物

第18図　菊間八幡神社要図

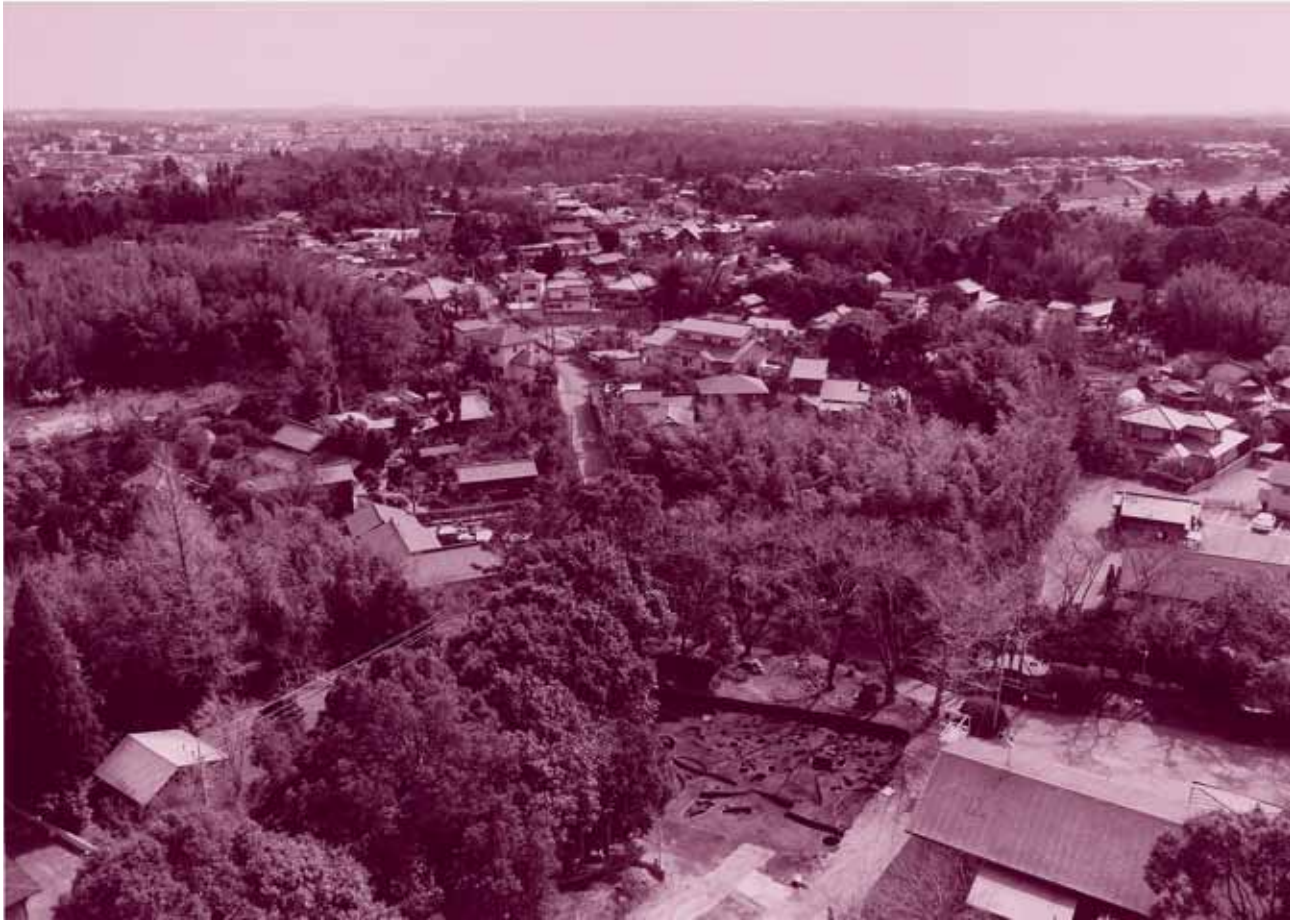
写　真　図　版



図版 1　菊間遺跡群袖ヶ台地区　位置と周辺地形（国土地理院、昭和22年）

図版２

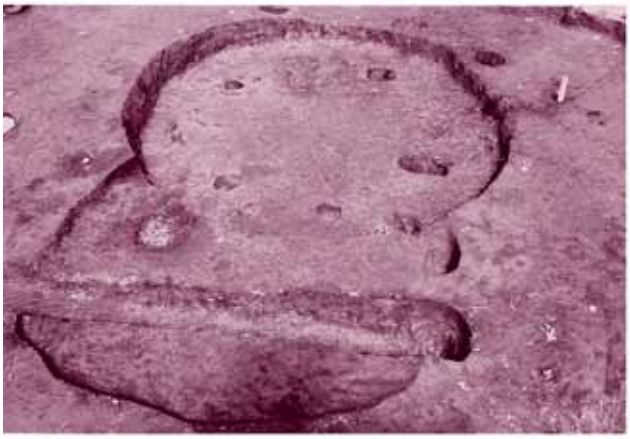
菊間遺跡群袖ヶ台地区調査区域全景



調査区域より北方向から南東方向遠望

①　５号ａ・５号ｂ

②　５号ａ断面



③　５号ａ・５号ｃ

④　５号ｃ炉上遺物

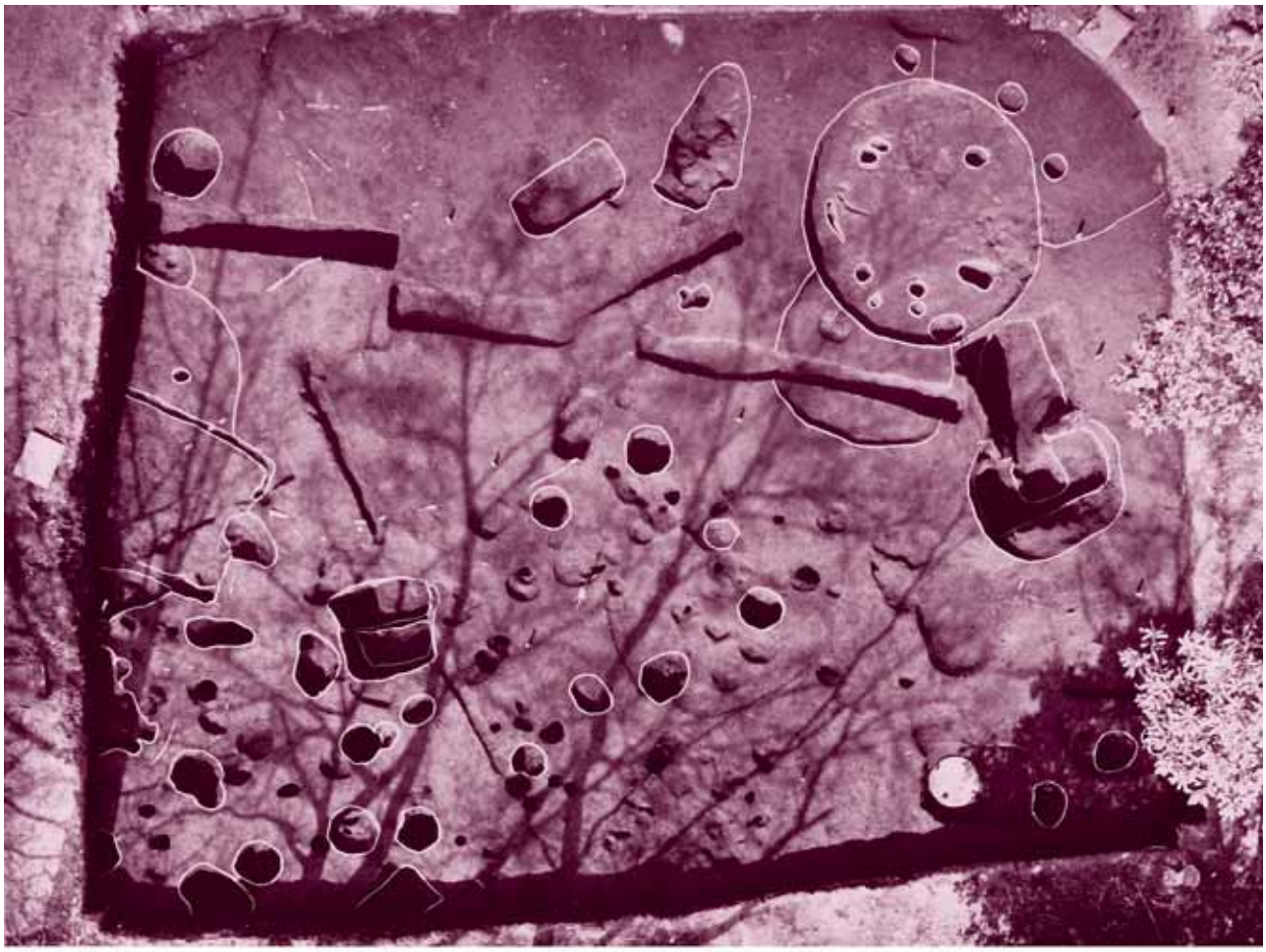
⑤　右側端８号

⑥　８号遺物出土状況

⑦　７号土壙墓

⑧　５号調査状況

図版４



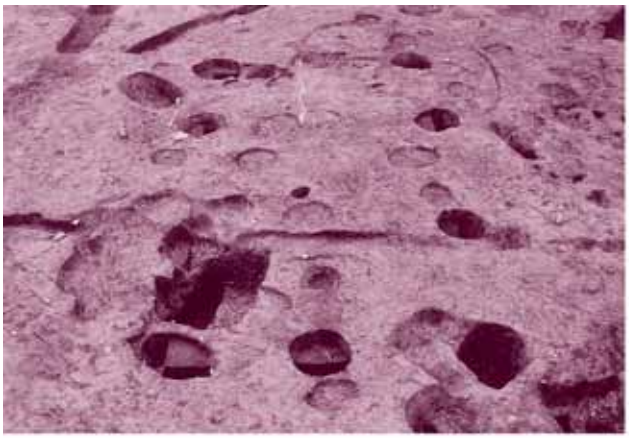
①　調査区全景　全体図参照

②　３号遺物出土状況

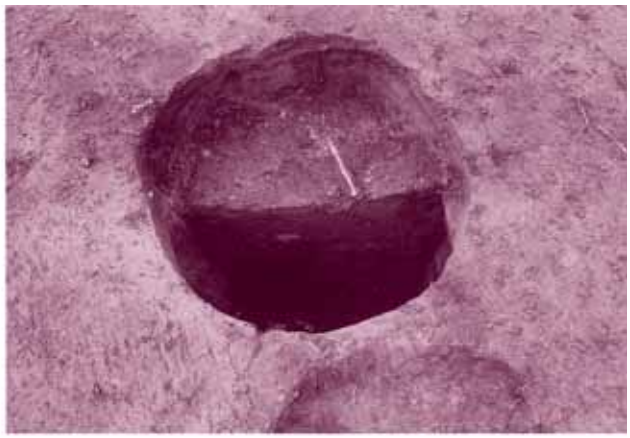
③　３号調査区境界断面

④　右３号・左８号

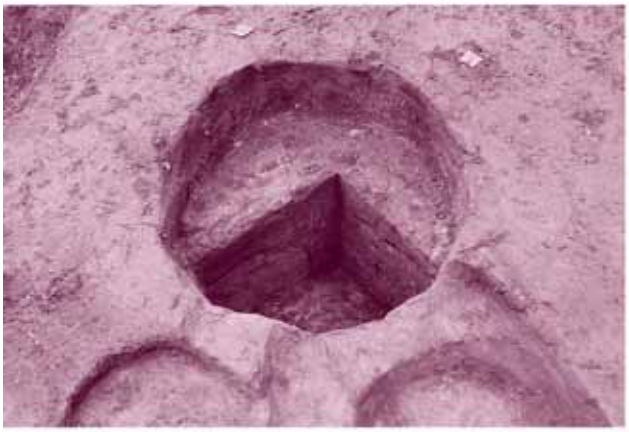
⑤　３号カマド断面



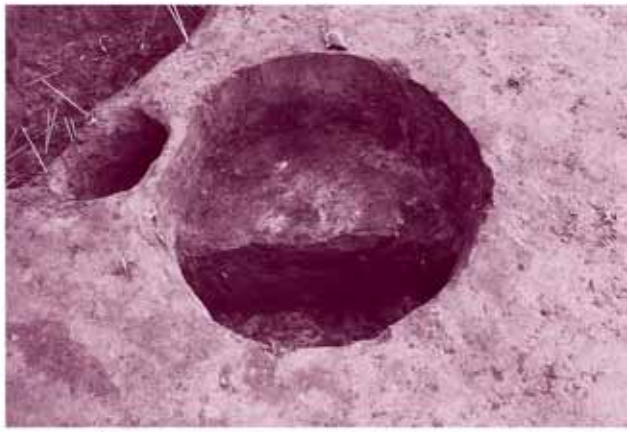
①　６号



②　６号Ｐ10

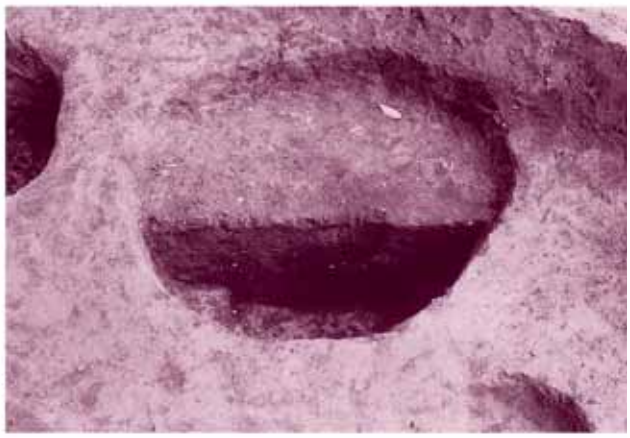


③　６号Ｐ６



④　13号

⑤　２号

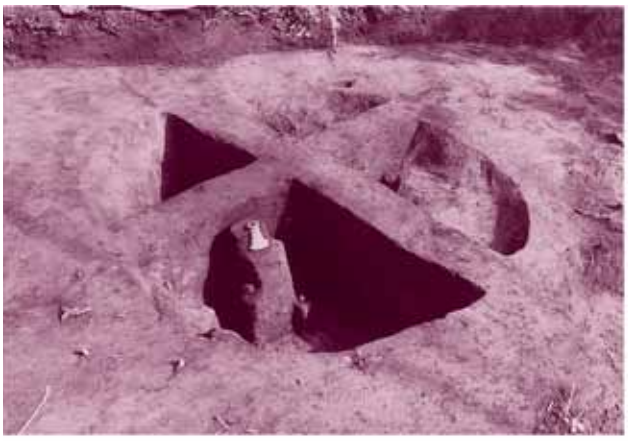


⑥　２号断面

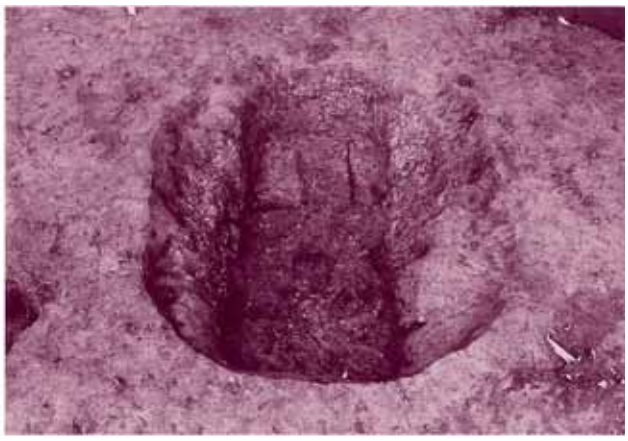
⑦　６号とその周辺部

⑧　調査状況

図版６



①　１号出土状態



②　１号埋没状態

③　１号墓道口

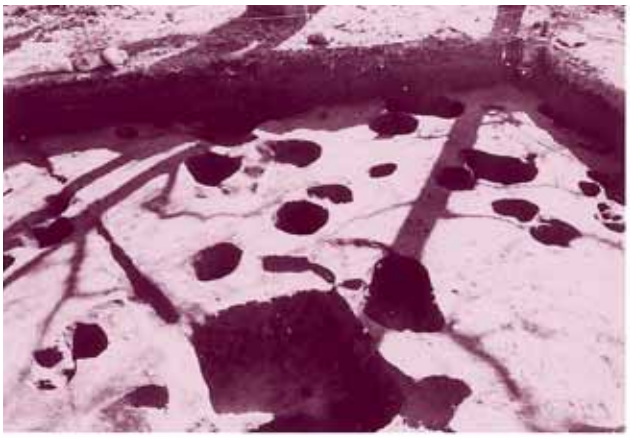
④　１号墓室

⑤　１号墓室側より墓道口方向

⑥　４号

⑦　４号と周辺部

⑧　４号天井除去後

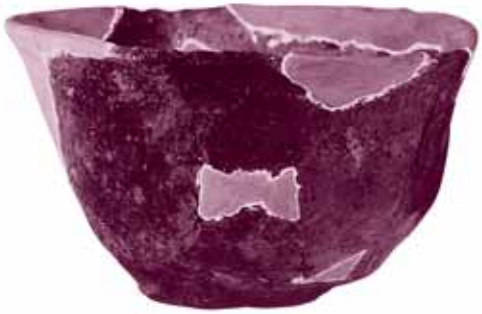


① 調査区南西隅

② 9号断面

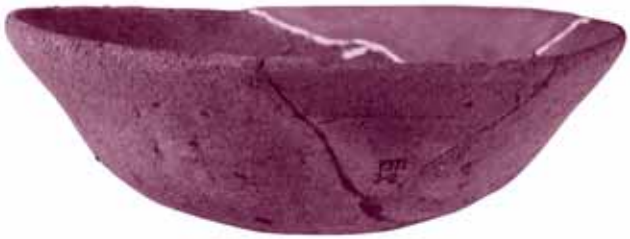
③ 空中写真準備の線引き

④ 八幡神社本殿

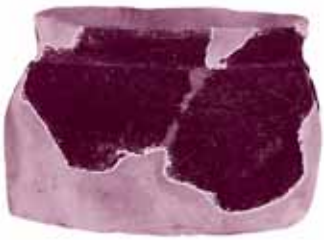


9-2 第5号c出土

13-1 第1号出土

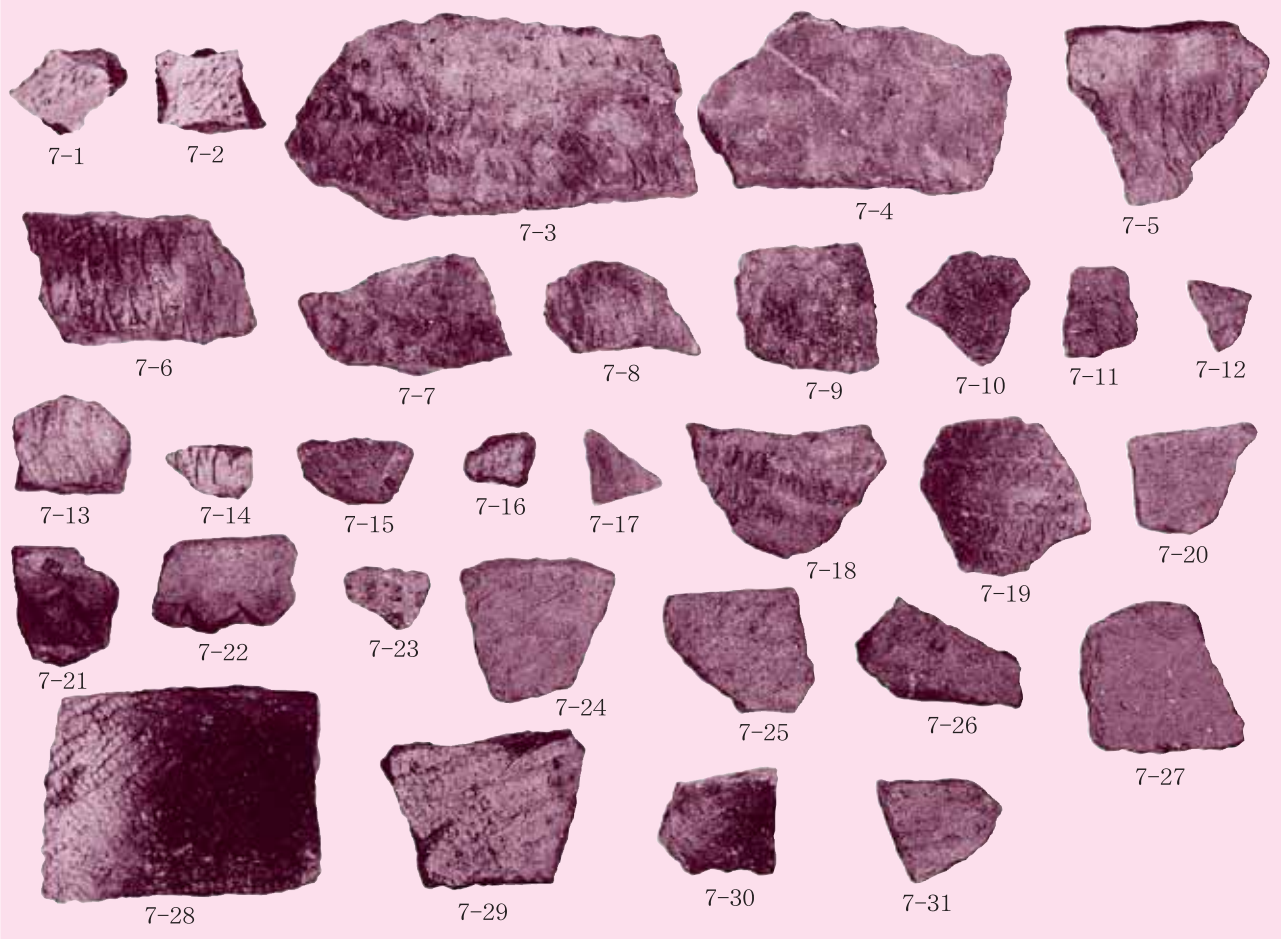


10-1 第3号出土

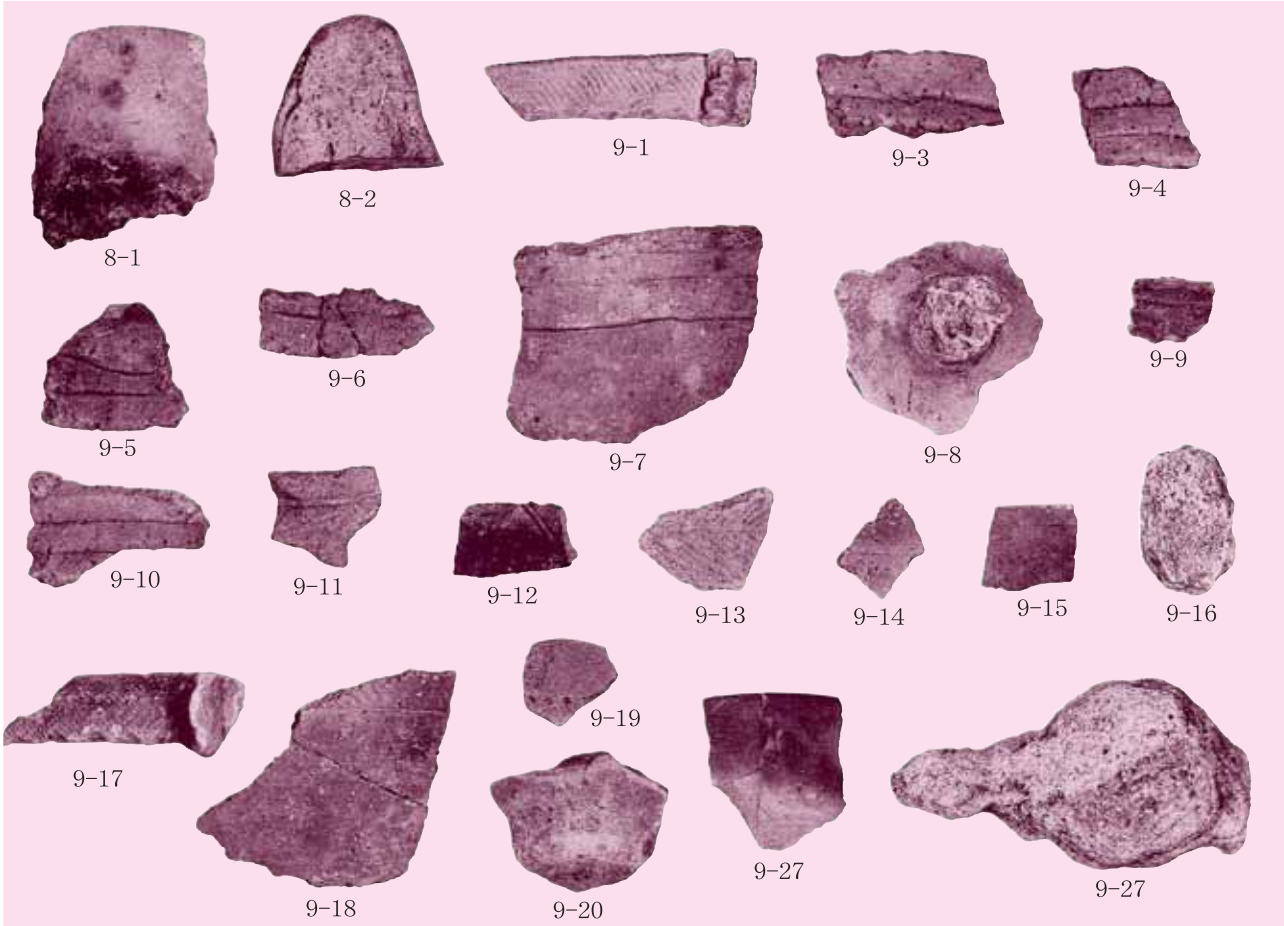


10-18 第3号出土

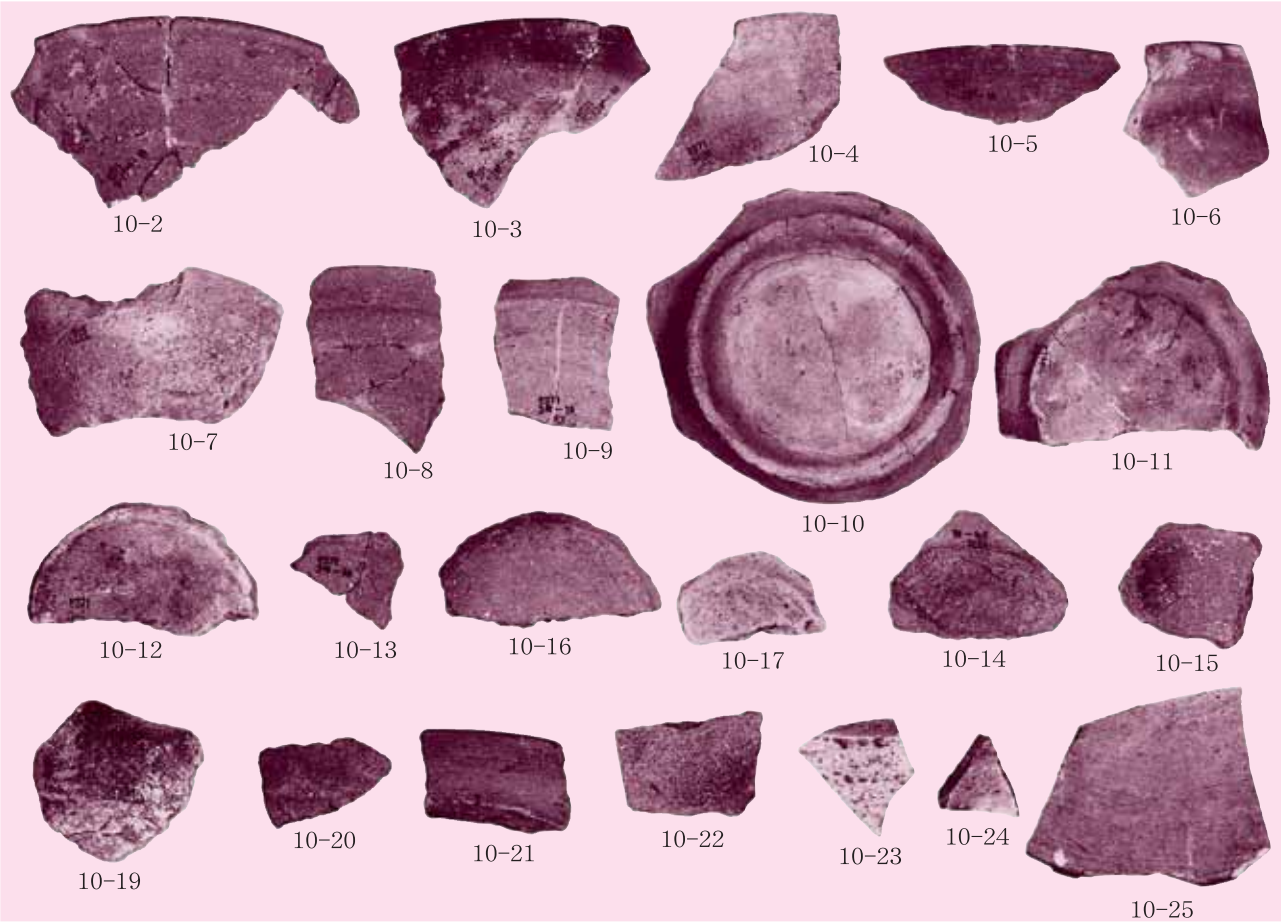
図版８



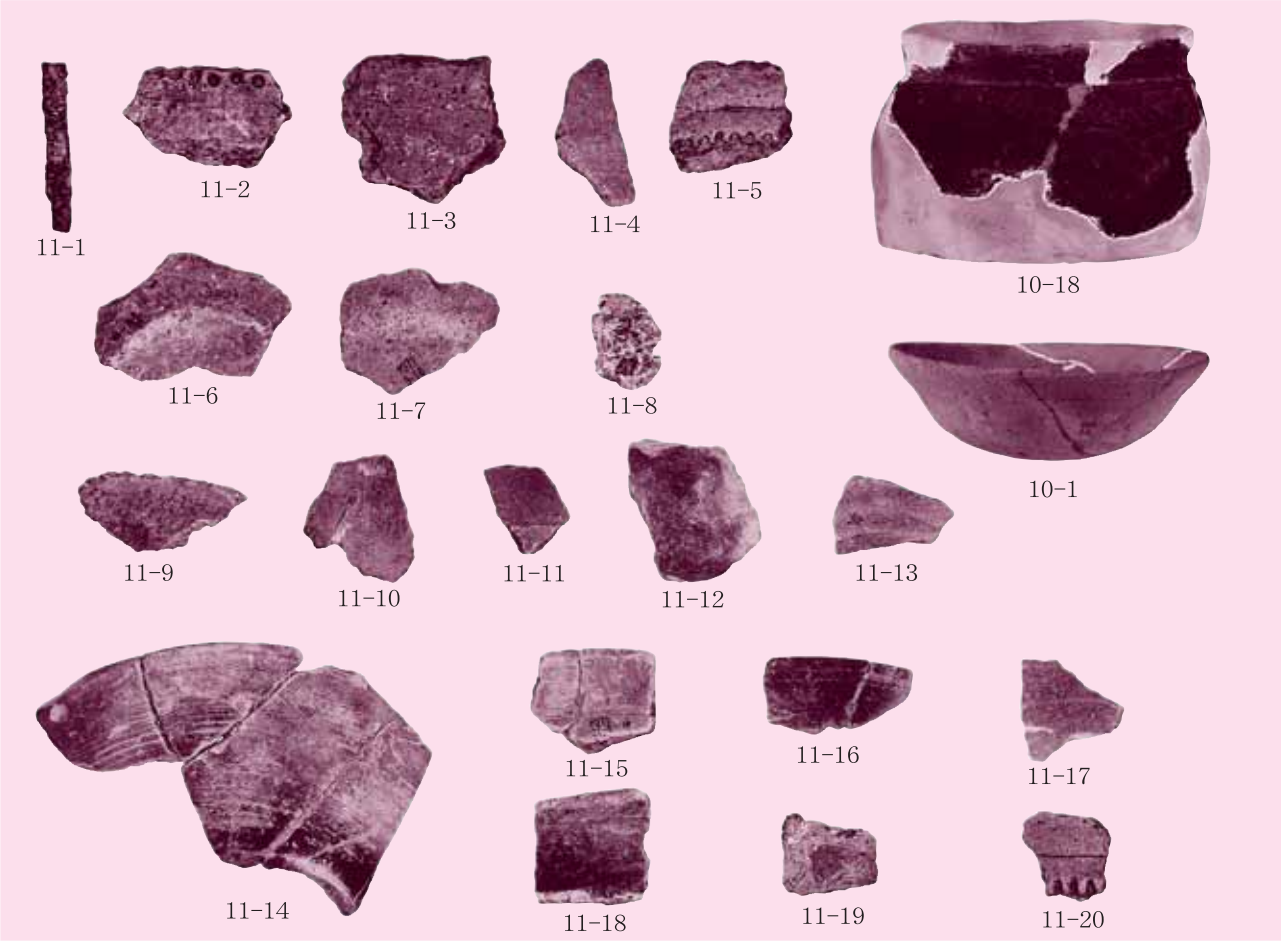
縄文時代出土遺物



第５号・８号出土遺物

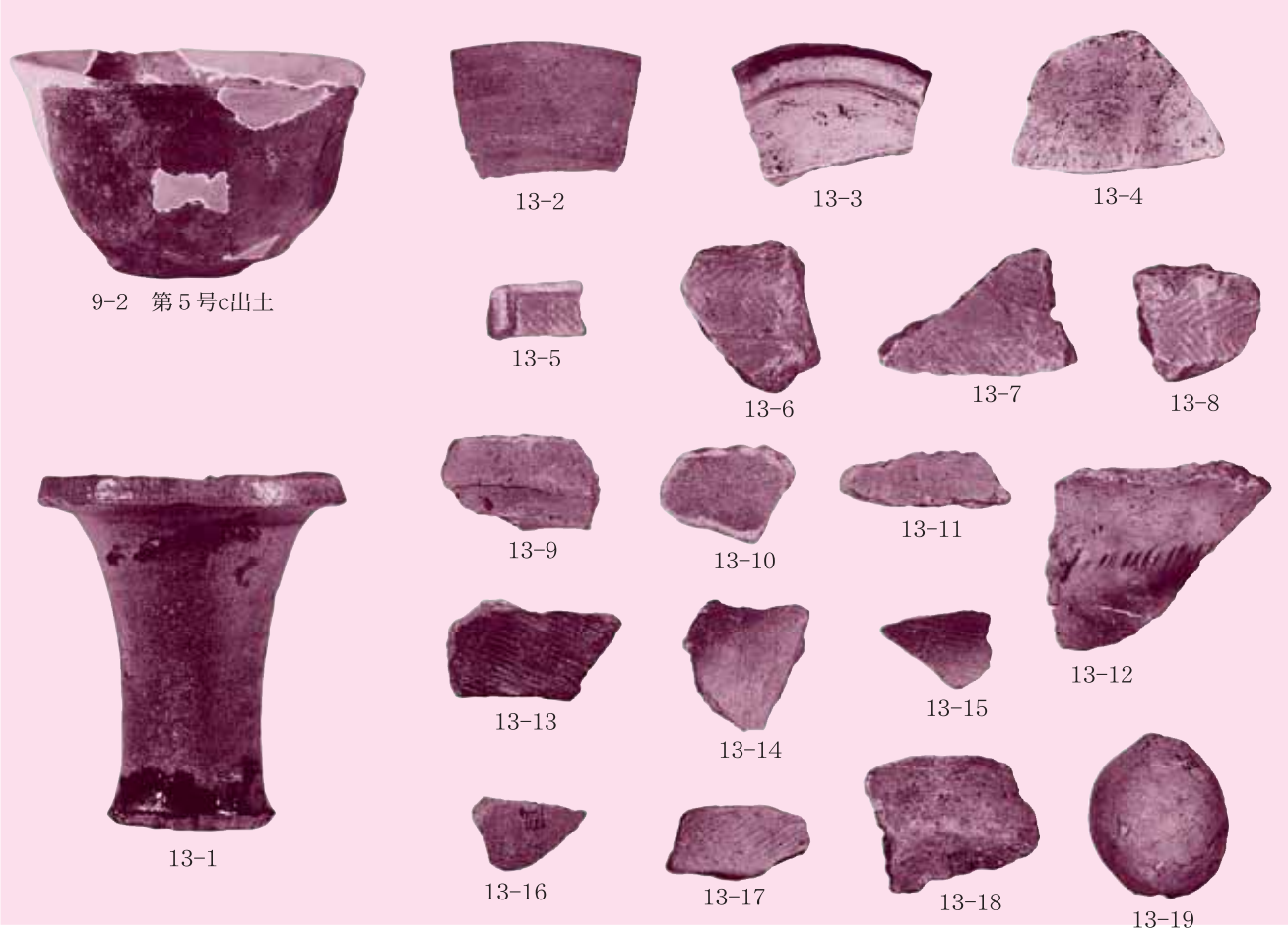


第３号出土遺物

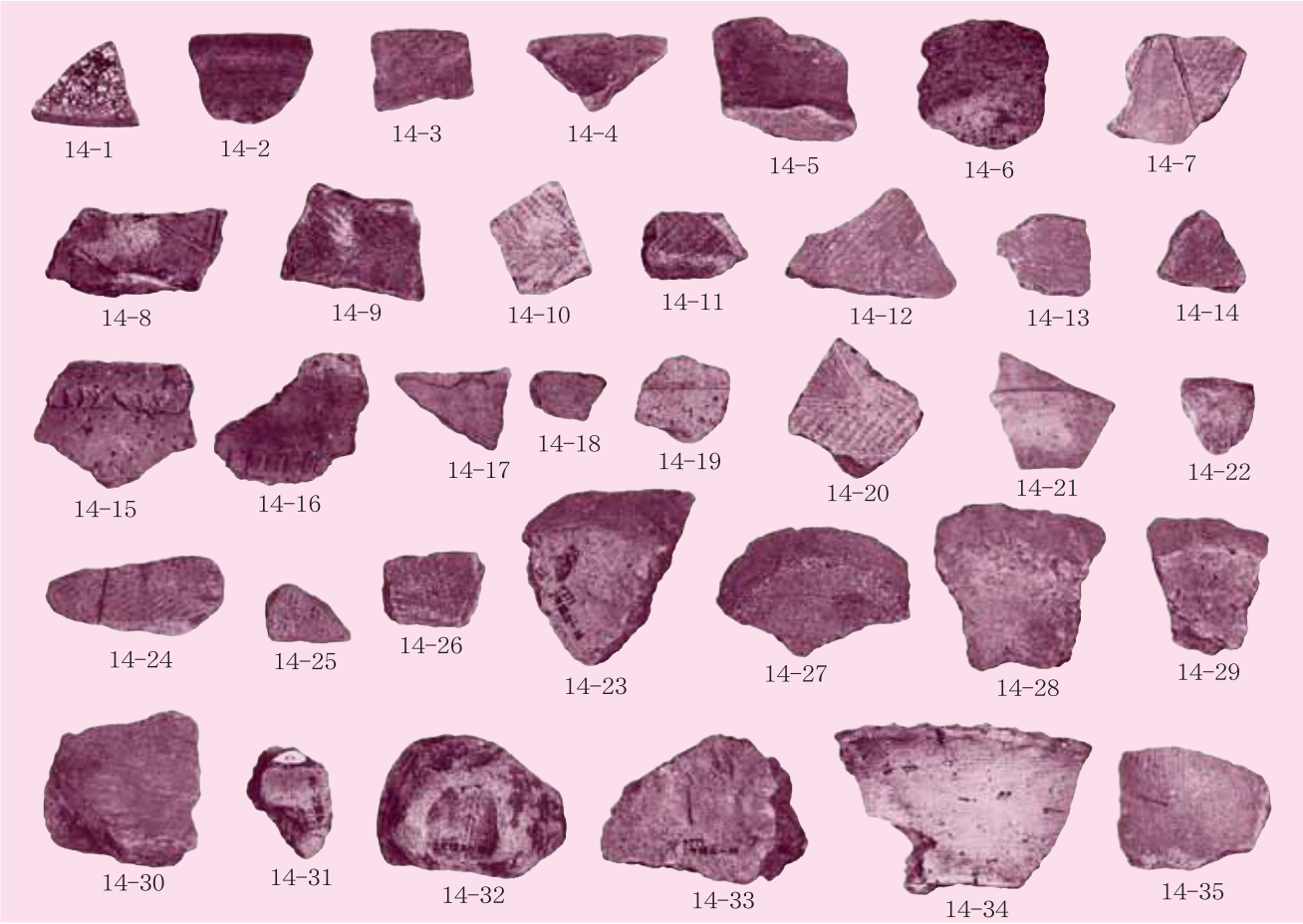


第３・７・21号出土遺物

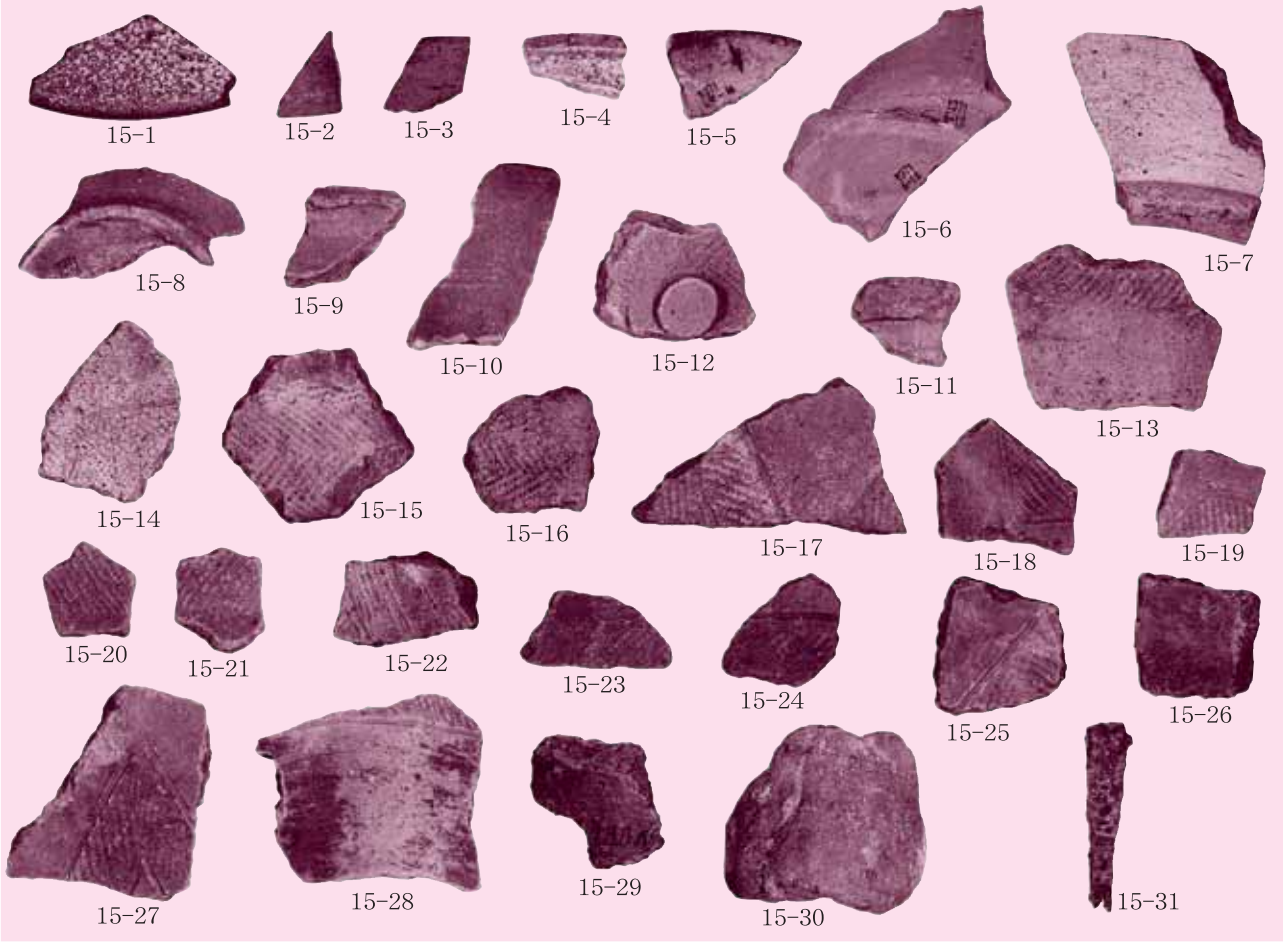
図版10



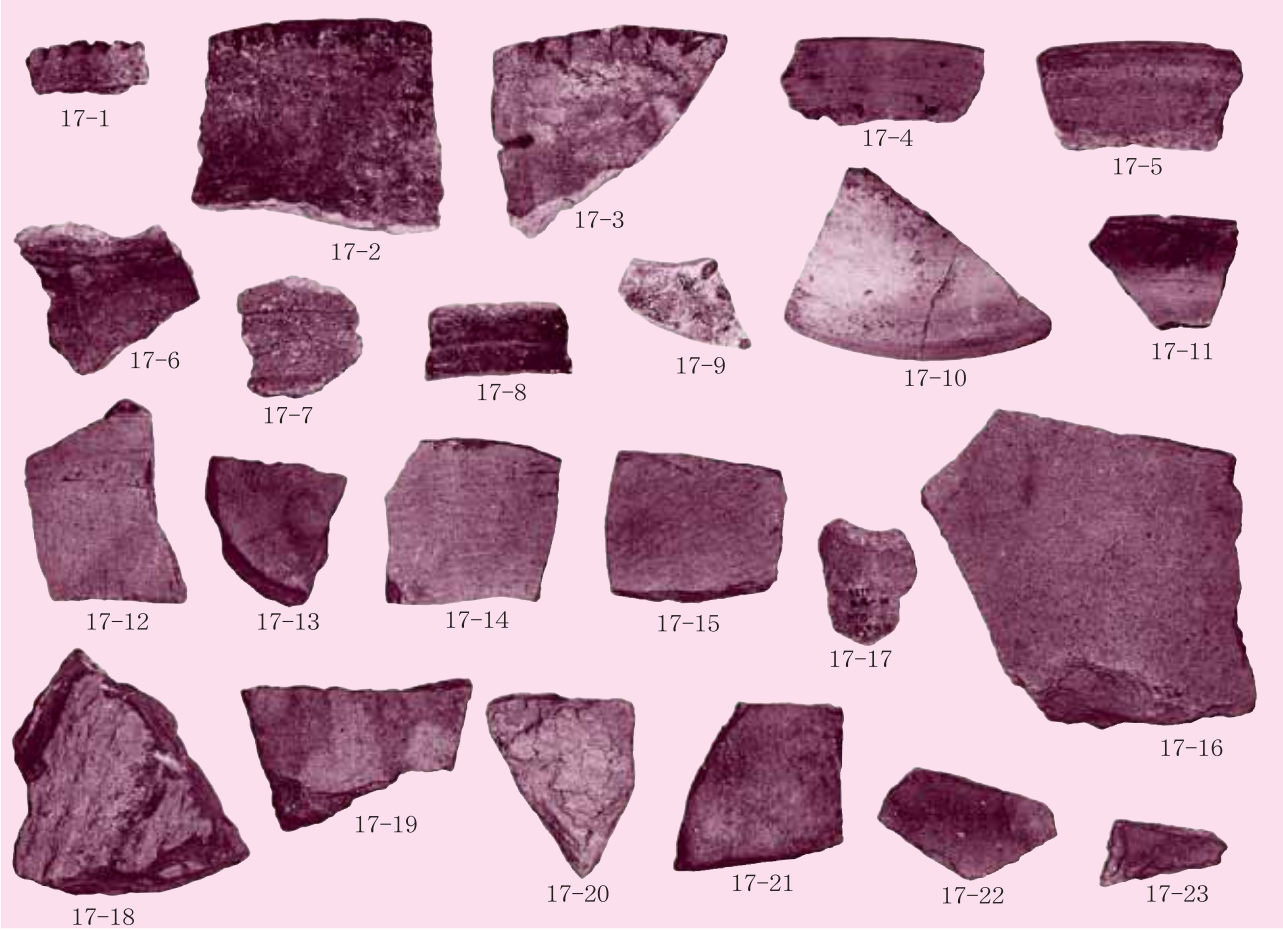
第５c・第１号出土遺物



第４・２・24号出土遺物



第６号出土遺物



第９・10・11・12・14・17号出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いちはらしきくまいせきぐんそでがだいちく
書名	市原市菊間遺跡群袖ヶ台地区
副書名	
巻次	
シリーズ名	財団法人市原市文化財センター発掘報告書
シリーズ番号	第86集
編集者名	近藤　敏
編集機関	財団法人市原市文化財センター発掘報告書
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地　電話 0436-41-7300
発行年月日	平成15年９月10日(2003年)

所収遺跡名(ふりがな)	所在地(ふりがな)	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯(世界測地系)	東経(世界測地系)	調査期間	調査面積 m²	調査原因
菊間遺跡群(きくまいせきぐん) 袖ヶ台地区(そでがだいちく)	千葉県市原市菊間字袖ヶ台3165番地1の一部(ちばけんいちはらしきくまあざそでがだいばんち)	12219	912	35° 31′ 56″	140° 8′ 21″	20030217 ～ 20030317	240	移動通信用無線基地局建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菊間遺跡群 袖ヶ台地区	集落 墳墓	弥生時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡　５軒 掘立柱建物跡　３棟 地下式壙　２基 土壙墓　２基	縄文土器(前期) 弥生土器(後期) 石器・土師器・須恵器	縄文時代は、遺構無し。 弥生時代後期の住居は、２時期以上の継続がある。 奈良時代掘立柱建物跡は、２棟に東西方向の規則性が認められる。

財団法人　市原市文化財センター調査報告　第86集
市原市菊間遺跡群袖ヶ台地区
平成15年９月３日　印刷
平成15年９月10日　発行
編　集　財団法人　市原市文化財センター
発　行　株式会社　エヌ・ティ・ティ・ドコモ
財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011　千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436-41-7300
印　刷　三陽工業㈱　市原支店